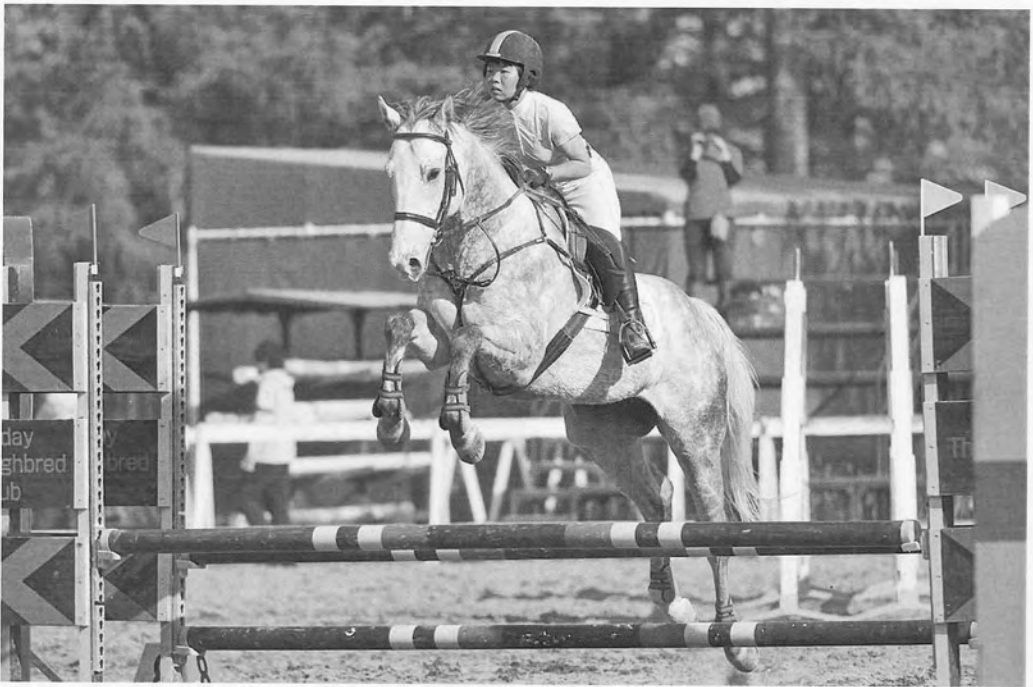


部 報

平成28年度 No.62

北海道大学馬術部



◆ 目 次 ◆

巻頭書	井上 京	2
Hippophile 掲載について		3
指導部報告		12
前主将より	中津 裕太	17
活動報告		18
調教報告		
北創号	高橋 春南 羽二生香成	26
北菓号	平澤 礼奈	32
北魁号	井畔 貴之	34
北騷号	高橋 春南	38
北秀号	大木 八恵	42
北鷹号	羽二生香成	44
北咲号	佐治ひな子	46
北響号	杉田 優	48
北汐号	本丸 尚人	51
北稜号	井畔 貴之 高橋 春南	53
北暁号	井畔 貴之	57
離厩報告		
北焰号	羽二生香成	61
チェリーアドミラル号	矢渡 光	64
ピュアメモリー号	平澤 礼奈	65
入厩報告		
ドラゴンケーニッヒ号	杉田 優	67
北水報告	寺嶋伊武樹	68
卒部にあたって		70
部員紹介		71
3年目	・杉田優・高橋春南・本丸尚人	
2年目	・井畔貴之・上野健太・大木八恵・桑本涼成・平澤礼奈・矢渡光	
1年目	・菅野隼人・熊倉大騎・須藤美瑛奈・羽二生香成・山川智大	
OB名簿		79
現役部員名簿		93
後援会報		97
編集後記		102

巻頭書

創造されしウマの意志

井上 京

最近偶然読んだ競馬雑誌に、「競走馬は騎手のために走る」と書いている人がいた。調教を積んだ馬は、背に乗せた人の意志を感じ、その意図に応えんがため、他馬に先んじようと力の限り駆けるという。同じほ乳類に属するとはいえ、ヒトとは異なる生物種であるウマが、ヒトの気持ちを汲み取り、そのために普通はしないような激しい運動をおのずからするという。ウマの世界の深淵を知らない私にはにわかには信じられない。しかしそんなことが世の中にあっというように思う。

障害馬あるいは総合馬として少しずつ新馬の調教を進める過程は、あるいはウマにヒトの意志を理解させる過程と言える。鞍上のヒトの挙動やその重さに慣れ、その扶助を理解し、いろんな運動をこなしていけるようになる。「信頼関係」といわれることがあるが、それ以前に、ヒトとウマの間の約束事を確立していく過程が調教の基本の一つのように思う。そんな過程が積み重なれば、それが「信頼関係」というものに至るのか。

さらにその関係が高まれば、あるいはウマはヒトの意図を汲み取ってくれるようになるのだろうか。新馬は横木さえ跨ぐことを知らないが、熟練した競技馬は自分の背丈ほどの障害であっても立ち向かう。

障害を飛越するとき、決してウマはヒトに飛ばされて飛越姿勢を取るのではなく、障害を飛び越えるのに適した姿勢を自ら取ろうとするはずだ。むろん、どんなウマも最初は飛び方を知らない。身をどうこなせば楽に飛越できるか、どのような姿勢が飛ぶのに適しているのか、ということ普通は知らない。調教の段階に応じて、横木から始まり、キャバレティ、低い障害から難しい障害へと段階を踏んで、少しずつ飛び方を覚えていくのだろう。障害を楽に飛ぶ方法が身につけば、ウマも飛ぶのが楽しくなるのだろうか。ぜひそうあって欲しいものだ。あるいはそうなれば、馬がその意志でもって騎手のために飛越する、という次元に到達できるかもしれない（夢に過ぎるか）。

最後に写真を一枚。騎手はOBの松尾さん（現ノーザンホースパーク）。馬はフェットウデメゾン。注意深く、かつ気持ちよさそうに、頭頸を伸展している。耳は前を向き、眼は着地点の先を注視している。飛越が大きいのはまだ用心深いからか。このとき、ウマはきっと無心に飛んでいたように思う。

それにしても、である。同じほ乳類でありながら、ヒトとまったく異なる形態を持つ生き物たるウマが、ヒトと意志を通じて、障害を飛越するという同じ目的のために運動する。こんな美しい生き物がこの世に存在するのを知ると、これを世に送り出した創造主があるにちがいないと思わざるを得ない。



(撮影：2015年5月23日)

特別記事掲載について

41年卒 近 藤 喜十郎

今年度の部報に本城啓文氏が発表されたHippophile (2011 Apr No.44)

論文を氏と出版社の了解の下に掲載させて頂くことになりました。Hippophileは日本ウマ科学会が定期的に出版していて、学会の馬に関する学問的な研究を発表する権威のある学会です。鬼籍に入られた千葉幹夫先輩を始め数々の先輩方が貴重な数々の論文を発表されております。馬術部の歴史については部で発行しました30年史、75年史に掲載されておりますが、部員の在籍は4年から6年ですので部の軌跡を知る機会は少ないのが現状です。定期的に過去を振り返る事は明日への活力になるのではと考えておりました。本城氏にその旨お願いしました処、快諾を得ましたので掲載の運びとなりました。本城氏は馬事公苑場長の折、優秀な総合馬を部に頂き、全日本を始め活躍の目覚ましさは記憶に新しい処です。

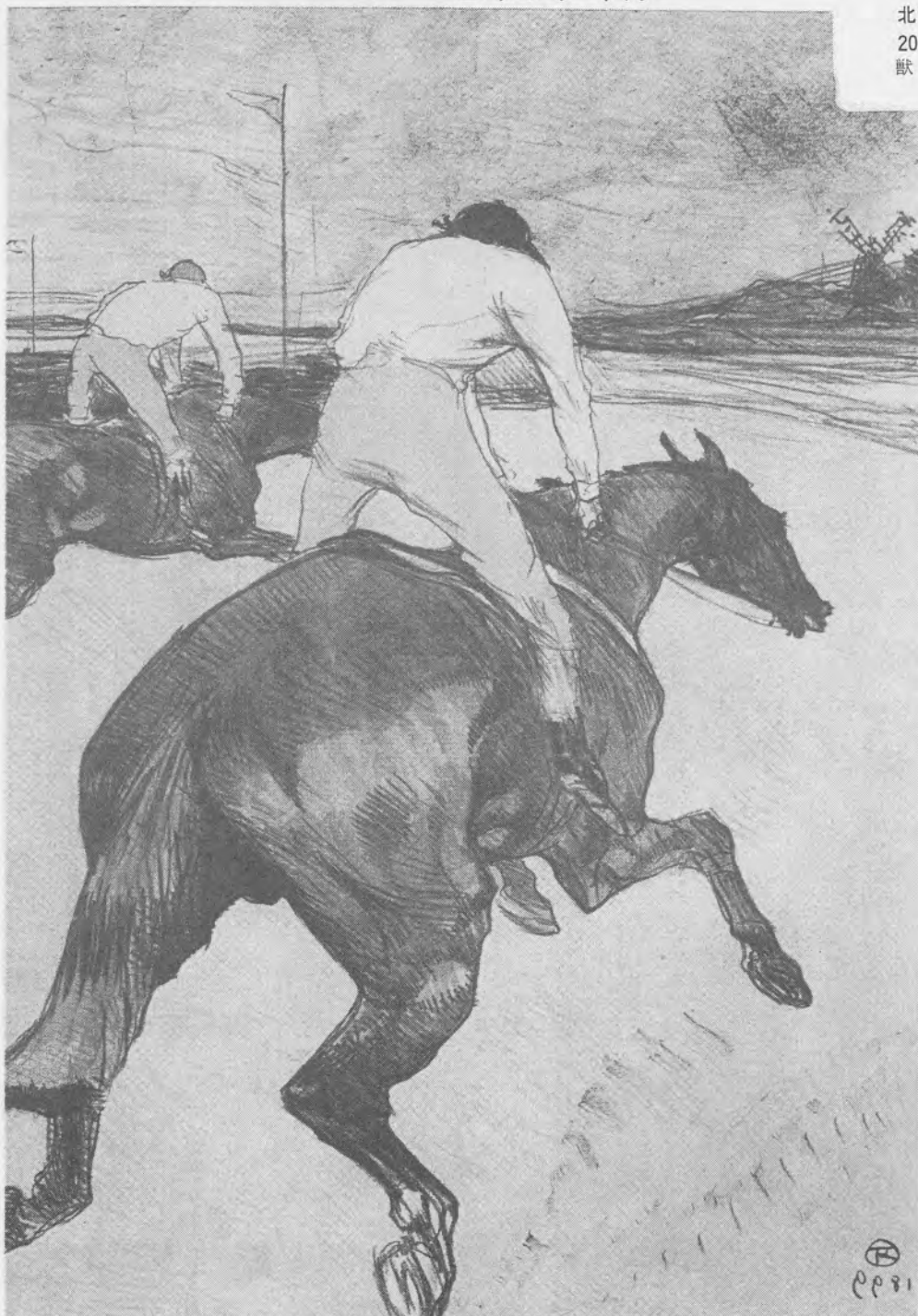
ISSN 1883-6062

Hippophile

ヒポファイル

Apr. 2011 No. 44

北海道大学
2011.05.02
獣・第一書庫



⊕
PP91

日本ウマ科学会

特別記事

北海道大学馬術部の紹介

本城敬文

Hokkaido University Equestrian Team

Yoshifumi HONJO



本城敬文 (ほんじょう よしふみ)

1955年大阪府生まれ。1978年北海道大学獣医学部卒業。在学中は馬術部に所属。主な戦績は、北日本学生馬術大会総合競技優勝、全日本学生馬術大会障害競技団体2位。同年JRA日本中央競馬会に入会。

栗東トレーニングセンター競走馬診療所、馬事部、競馬学校、美浦トレーニングセンター競走馬診療所長、馬事公苑長を経て、現在、日本馬術連盟に勤務。

1. 北海道帝国大学乗馬会

大正13年(1924)10月「北海道帝国大学乗馬会創立委員会」が結成され、当時の情勢から軍事研究団体の一環として乗馬練習をしたい旨を軍部に請願の結果、第七師団長より軍馬借用許可を得て、翌大正14年(1925)1月、「北海道帝国大学乗馬会」発足となった。中村大尉を会長に三十名の会員が集まり、土曜に月寒第二十五連隊での練習や旭川第七連隊での合宿などを行った。

2. 北海道帝国大学文武会馬術部

その後、北海道帝国大学「文武会」^(注1)にも加入が認められ、昭和5年(1930)、東京大学馬術部出身の永井一夫教授を部長に、四十数名により「北海道帝国大学文武会馬術部」の誕生となった。練習は乗馬会時代と同じく第七連隊、第二十五連隊などで行われ、創立一年目の昭和5年(1930)「第七回全国高等学校馬術選手権大会」(インターハイ)で北大予科が2位となった。また翌昭和6年(1931)には、「第三回全日本学生馬術選手権大会」で東園基文が優勝、さらに翌年の同大会でも準優勝に輝いている。

昭和12年(1937)全日本馬術大会では石川正吉が学生障害優勝、学生団体でも北大が優勝した。昭和14年(1939)には、「第十六回全国高等学校馬術選手権大会」で念願の初優勝。全日本学生馬術選手権大会でも菅間威が、東園基文以来の優勝に輝くなど、学生馬術のトップを極めるに至り北大馬術部の名声は一気にあがった。

3. 櫻星会馬術部

文武会馬術部は、予科3年、本科3年、同好会の集合体組織であり、念願だった予科馬術部の独立は昭和15年(1940)2月に公認されて、「櫻星会馬術部」^(注2)が



図1 旭川第七連隊での合宿風景 昭和2年3月撮影



図2 学内練習 昭和11年4月撮影

設立された。このことにより、インターハイなど高等学校の競技会を櫻星会の後援のもとに戦えることとなった。櫻星会馬術部は、昭和19年(1944)に戦火の影響で活動を中止した。

4. 北海道帝国大学報国会国防訓練部騎道班

当時の軍事体制強化の傾向が次第に強まる中、昭和16年(1941)2月、文武会が解消されて「報国会国防訓練部騎道班」と名前を改め、事実上の軍事教練の一組織として存続せざるを得なくなった。そして同年12月には、太平洋戦争に突入する。戦時下、一時は部員数も百数十名に達したが、第二十五連隊での週一回の練習もままならず、北部軍司令部、北部第六十三部隊、

あるいは北大農場での分割練習なども試みられた。しかし、戦火激しく昭和19～20年(1944-45)には、馬術部としての実質的な活動は休眠状態となった。

5. 北海道大学体育会馬術部

昭和20年(1945)8月に終戦を迎え、昭和22年(1947)9月に帝国大学は、新制大学として「北海道大学」に改称された。昭和24年(1949)5月には、法文、教育、理、医、工、農、水産学部を設けた総合大学として生まれ変わる。ようやく世の中も落ち着きを取り戻した昭和26年(1951)9月、スポーツ団体として「北海道大学体育会馬術部」の復活が実現した。練習は札幌競馬場、札幌乗馬クラブの好意のもと、週三日の練習日確保が可能となった。

6. ポプラ並木第一農場

昭和29年(1954)、第九回国民体育大会が札幌で開催された。当時の大会は、出場する乗馬を開催地が準備する(貸与馬)競技種目が中心だった。札幌国体の開催終了後、北大学長の馬善鄰氏、馬術部第四代部長の太桑康光氏などから当局への請願もあって札幌国体



図3 ポプラ並木馬場内で講習会 昭和37年撮影



図4 手入れ風景 昭和45年撮影

が用意した貸与馬(20頭)の中から6頭を北大が購入することになった。

以前から第一農場で学生実習馬として飼育されていた2頭とあわせて8頭が馬術部に託され、永年の自馬繁養の夢が実現した。あわせて厩舎、部室も第一農場内の施設を借用することになり、自前の管理体制が一気に整った。

こうした経過から、用具を収納する馬具庫も、昼なお暗い古いコンクリートサイロの転用だった。馬場は第一農場の農業実習馬場(ポプラ並木馬場)を利用することになった。

この札幌国体の6頭の自馬の実力は見事だった。札幌国体の翌年、昭和30年(1955)の第十回川崎国体で北大が初めて自馬出場し、ヨシタカ号(後の北嶺号)が六段飛越(宮澤 寛)で3位、大障害(大久保利彦)でも5位に入賞。同年および32年の全日本馬術大会では六段飛越(大久保利彦・樋口正明)に2位入賞した。さらに昭和34年(1959)の東京国体の六段飛越(森本 悌次)では、全国でただ一頭170cmを完飛して優勝。つづいて昭和35年(1960)熊本国体の成年障害(大場善明)も優勝し、六段飛越(千葉祐記)には3位入賞している。

また同時に入厩した北楡号は、昭和33年(1958)の富山国体の総合馬術競技(千葉幹夫)で優勝。同年、中京競馬場で開催された「第一回全日本学生馬術自馬大会」(現在の全日本学生賞典馬術大会)では障害(千葉幹夫)の2位、総合馬術(同)の3位に入賞した。

その他にも、北斗号(S29札幌国体の中障(岡田光夫)4位・総合(鎌田正人)7位、S30全日本の中障(鎌田正人)4位、S32全日本の中障A(岡本 洸)8位並びに総合(同)8位)、北標号(S32全日本の中障A(生田勝一)5位、S33富山国体の大障害(同)4位、S34東京国体の大障害(佐伯雄二)4位、全日本(原邦男)の六段6位)など粒ぞろいの北海道産・優駿たちだった。

一方、戦後再開された北大馬術部の活躍は、自馬だけではない。当時、各大学の自馬保有はまだ数少なく、対抗戦で学生日本一を決めるのは、貸与馬形式の「全日本学生馬術王座決定戦」だった。全国5～6ブロックの地区優勝校が、東京馬事公苑で王座を競っていて、昭和37年(1962)の北大チームは、この「王決」をも



図7 23条馬場と部室、厩舎全景 平成11年撮影



図8 18条から移設した時計台

北大と学生馬術界

北大馬術部の前身である北大乗馬会創立の大正末期は、馬術部のある大学の数も少なく、自馬を持った部は僅かで多くは軍隊の馬で練習し、競技会も陸軍士官学校、習志野騎兵学校等の施設の提供を受けていた。当時、高等学校にも馬術部のあるものがかなりあって、「全国高等学校馬術競技会」が東京帝国大学馬術部主催のもとに大正14年から毎年、陸軍大学で開催されていた。北大予科は昭和5年「第7回大会」（出場校は20校）から昭和17年の「第19回大会」まで出場している。

第1回七帝戦は北大が優勝

「国立七大学（旧七帝国大学）定期戦」は、現在は他の競技種目も各大学持ち回りで開催しているが、馬術競技は昭和12年に「第1回」が学習院馬場で開催され、北大が優勝した。以来、戦時中の数年間は中止されたが、昭和27年から復活して現在に至っている。

北日本地区学生馬術の発展

北海道では昭和17年に「帯広畜産大学」（当時は高

等獣医学校）、昭和37年に「酪農学園大学」、「北大水産学部」（函館）、昭和48年には「北海道工業大学」にそれぞれ馬術部が創立された。東北地区にも「東北大学」を筆頭に、岩手、岩手医科、東北学院、福島、弘前、秋田の諸大学に馬術部が設立され、北海道を含めた北日本地区の学生馬術活動も次第に活発になってきた。そこで「東北、北海道学生馬術選手権大会」が昭和27年から開催され、「第一回大会」は北大に於いて、岩大、岩手医大、帯広畜大、北大が参加して実施。以後昭和40年「第14回大会」まで北大、岩大、福島大、東北大、帯広畜大等の各大学に於いて開催されて来たが、昭和40年「北日本学生馬術連盟」が結成されてからは、「北日本学生馬術大会」に併せて開催することになった。

真の全日本学生王座決定戦

昭和30年度は北大馬術部が出場したすべての公式戦に全勝する戦後の最盛期を迎えながら、学生馬術の全国的大会がないために「日本一」を競う機会がなかった。当時は関東学生馬術協会、関西学生馬術連盟、東京六大学などの組織はあったが全国的な組織がまだなかった。それにもかかわらず関東地区と関西地区の間で「全日本学生王座決定戦」の名称で、昭和26年から大学日本一を決めていた。

北大馬術部は、昭和30年の日本馬術連盟主催の「第1回学生馬術講習会」でこの大会を真の全国大会にすることを強く主張した。昭和32年12月、全日本学生馬術連盟が創立されて、ようやく同連盟主催のもとに真の学生日本一を決める「全日本学生馬術王座決定戦」（王決）が行われることになった。

「王座決定戦」の名称は昭和42年で廃止され、昭和43年からは三種目競技会「全日本学生自馬大会」（のちの「全日本学生賞典馬術競技大会」、「全日本学生馬術三大大会」）として実施されている。

北大主催だった全日本女子学生馬術大会

北大馬術部は昭和33年に「第1回招待全日本女子学生馬術大会」を開催し、昭和39年の「第7回」まで北大馬場を会場として実施した。「第6回大会」には青山学院、麻布獣医、明治、岐阜、学習院、東北、福島、鹿児島、早稲田、帯畜、北大の計11校が、また「第7回」には熊本、岡山、岐阜、名古屋、早稲田、中央、

福島、岩手、酪農、帯畜、北大の11校が参加し、この大会が母体となって昭和40年から全日本学生馬術連盟の主催で「全日本学生馬術女子選手権大会」が開催されるようになった。

功労者・功労馬

日本馬術連盟功労者

北大馬術部の卒部生は文武会馬術部発足の昭和5年から数えて平成22年までに430名（未確認の予科馬術部、水産馬術部のみの部員は含まれていない）になる。部長として活躍された方を含め、社会人となってからも馬術の発展に貢献した者も多く、日本馬術連盟からの功労賞授与者を8名輩出している。

- 1) 昭和45年度 太秦 康光（北大馬術部第四代部長）
- 2) 平成3年度 半澤 道郎
（北大馬術部第六代部長・S8卒）勲三等旭日中綬章
- 3) 平成7年度 岡田 光夫
（前北大馬術部監督・S17卒）瑞宝小綬章
- 4) 平成9年度 宇都見千之助
（栃木県馬術連盟・S21卒）
- 5) 平成12年度 鎌田 正人
（北海道乗馬連盟・S30卒）
- 6) 平成13年度 斎藤 善一
（北大馬術部第九代部長・S28卒）
- 7) 平成17年度 八木 正巳
（北海道乗馬連盟・S39卒）
- 8) 平成19年度 東園 基文
（北大馬術部東京OB会名誉会長・S9卒）
従三位勲二等瑞宝章

日本馬術連盟功労馬

北大の自馬の歴史は昭和18年に小樽の軍用保護馬を500円で共同購入した環珞号から始まり、現在までに132頭を数える。

現在の自馬はサラブレッドが主流であるが、戦後の昭和30年代までは「アラブ」「アングロアラブ系」「アングロノルマン系」「トロッター」「中半血」などの馬たちもいた。彼らは戦時中の軍用馬として日高、十勝、釧路などで生産され、戦後は競走馬として地方競馬で走ったり、農耕使役馬などにも活躍した末裔かと思われる。

北大繋養馬の名前に「北」を冠するようになったの

は、昭和31年4月からである。北大らしい名前について、「恵迪寮歌から探す」とか、「北海道の山や地名を当てはめる」などの案もあったが、一部の馬を除いて「北」に統一された。

全国レベルの競技会（全日本学生、全日本、国体）に出場した馬は、45頭で以下の5頭は日馬連の功労馬表彰を受賞している。

- 1) 昭和48年度 北環号
- 2) 昭和55年度 スターライト号
- 3) 昭和59年度 ドンホッパー号
- 4) 平成6年度 北皇子号
- 5) 平成8年度 明日檜号

北大方式の模索

北大馬術部の歴史には好不調の波があり、昭和5・6年、昭和12～14年、昭和30～37年、昭和49～54年、昭和60～63年は好成績を挙げることできた時期であった。近年は中央とのレベルの差が開く一方であるが、何とか追いつこうと模索が続いている。

北大馬術部では、岡田光夫氏（S17卒）が昭和38年から平成6年までの32年間、歴代唯一の監督である。過去から現在に至るまで、卒部後も在学している若いOBや在札のOBなどが技術指導や新馬調教を担当し部員の指導も実施することはあるが、正式なコーチは、昭和30年代に岡田光夫氏、40年代に小栗紀彦氏などが就任していた一時期しかない。伝統的にOBの関わり密度は小さく、現役部員は、自分たちで最良の方法を模索しながら格闘してきた。学生自らが自分たちで考え行動することは非常に素晴らしいことである。しかしながら、北大馬術部には経験者の部員は非常に少なく、調教方針や若手部員の指導方針などに的確な指針を立てることに非常に困難を伴う。そこで、先代の方法と馬術書を参考に毎週のように勉強会を開き議論した。考え方の違いでOBと気まずい関係になったこともある。また、現役は1年ごとに代替わりするため、その方針が継続されるとは限らず、中長期スパンで計画しなくてはならない人馬の養成に一貫性がなくなり不都合が生じる危険性も高い。わが馬術部が継続して好調期を維持できない原因のひとつがここにあると思われる。活躍している中央の大学馬術部には、強力な指導者がいて腕を振るっているところが多い。

前述のように、経験者の部員が非常に少ないため、

幼少期からの豊富な経験を有する部員の多い中央の馬術部には、技術では到底かなわない。そこで特に経験と技術を必要とされる馬場馬術での勝負は諦め、障害、総合に活路を求めている。

戦後の黄金期を支えた馬たちが去ってから、しばらく低迷期が続いた。この頃、元陸軍習志野騎兵学校教官でイタリア留学してイタリア式馬術を習得し、国際競技でも活躍した今村安氏（ロスオリンピックを西大尉騎乗で優勝したウラヌス号を見出した）の門下生である岩坪徹氏（東京オリンピック障害馬術候補選手）が、昭和38年から41年まで札幌勤務のため札幌乗馬倶楽部で乗っておられた。当時の馬術部はこのイタリア式馬術の導入に今後の命運を託した。しばらく大きな成果は挙げられなかったが、昭和49年のスターライト号の活躍により一時代を築くことが出来た。その後イタリア式馬術の影響は徐々に薄まり、60年代にはその伝統を残しつつもほとんど影を潜めることとなった。昭和62年頃から積極的に中央の講習会に参加したり、指導者の指導を受けるなど交流を深める流れになっていった。

現在の活動状況

平成23年2月現在、3年生3人、2年生8人、1年生11人、合計22人（男女とも11名）が13頭の馬で活動している。

練習がないのは月曜のみで、火～日曜はおおむね以下のタイムスケジュールとなっている（日曜の練習は9：00から）。

5：00～8：30	朝練習（集合、装鞍、騎乗、手入れ）
12：20～12：40	昼当番（飼い付け、寝糞返し）
16：30～18：00	夕当番（引き馬、手入れ）
21：00～21：10	投げ草（男子は泊まり）

外乗（街乗）

北大は札幌市内にあり、広大な敷地内に農学部の実験農場を含めほとんどの学部ならびに関連施設が集約されている。馬術部の馬場は現在敷地内の北端に位置しており、道路を挟んで北側は、住宅地である。以前は、馴致を兼ねて馬場の外で外乗（街乗）することも容易であったが、最近は住宅地への立ち入りが不可能となったりと制約が増え、行動範囲が構内に限定され



図9 朝練で構内外乗

てしまった。過去には騎乗して隊列を組み北海道神宮に初詣にいたり、定山溪（札幌の南西）や茨戸（札幌の北、石狩浜方面）に遠乗会に行ったりした。いまでは、事前に警察の許可を取り、夜明け前に大通公園の雪祭り会場に行くことが唯一となっている。

合宿

合宿は年に4回あり、5月の新歓合宿、夏の日高合宿、年末年始の冬合宿、3月の合宿である。5月の合宿では、新入生が馬術と部活動の基礎を教わる。日高合宿では、1年生が北大の日高実験農場で農作業を手伝い実験馬で騎乗訓練する。3月合宿では、親交のある乗馬クラブなどに数人づつ武者修行に行く。

バイト

馬の飼料費や装蹄費などの費用をまかなうため、アルバイトは不可避である。北海道ならではの農場のアルバイトで、現金の代わりに牧草を得ることもある。最大の収入は、札幌競馬でのアルバイトである。昭和30年代には一流ホテルでダンスパーティーを開催して収益を得たこともあった。

北大馬術部讃歌

作詩 三浦 博一郎 S39卒
作曲 滝沢 南海雄 S40卒



北大馬術部讃歌

一
春來たれば、大地光る
銀の道山、夢野・光り
高らかに、今ぞ開け/
われら駿馬のほされあり

二
同来たれば、旅をかざせ
奇蹟の飛躍に、意気軒昂たり
高らかに、今ぞ開け/
われら駿馬のほされあり

三
霞れて、鞍路塵か
可憐の孤枝、飛躍ははめど
強熱と、進みて行かむ
駿馬のほされあるかぎり
北大 / 北大 / お、我が母校
われら駿馬のほされあり

図10

馬術部讃歌は昭和38年に誕生し、以来コンパでの定番であり、北大寮歌としても歌い継がれている。

北大水産学部馬術部

北大は、札幌にほとんどの学部が集中しており、馬術部の活動も札幌が中心であるが、水産学部のある函館でも部活動を行っている。水産学部生は、札幌で1年半の教養課程を終えてから函館キャンパスに移行するので、1年生から馬術部員であった者と、函館移行後の2年生の後半以降から入部する者が混在する。水産学部馬術部は昭和37年に創立されたが、札幌から4年間部活動を継続できる者が毎年コンスタントにいるわけではない。自馬を保有して活動していた時期(3期3頭)があったものの、部員数の減少とともに休部を余儀なくされた時代もあった。現在は約17名(3年生11人、4年2人、院生4人)の部員が、自馬を持たずJRA函館競馬場で活動しており、本学や岩手大との交流戦、北日本学生選手権出場を行っている。



図11

北大馬術部のエンブレムは中世の騎士をかたどっている。東園基文氏が、昭和7年にドイツ誌ザンクトゲオルグを参考にして作成したもので、代々ジャージや卒部記念のペナントに使用されている。

S37～39	(1962～64)	北海道大学水産学部馬術部 創立～休部
S42～?	(1967～?)	日本中央競馬会函館競馬場にて活動～休部
S49～58	(1974～83)	初めての自馬(49～54)を保有し、競馬場でも活動
S58～H3	(1983～91)	東山乗馬クラブにて活動
H3～4	(1991～92)	高村牧場にて活動
H4～5	(1992～93)	東山乗馬クラブにて活動～休部
H12～現	(2000～)	JRA函館競馬場にて活動

本稿は全面的に北海道大学馬術部ホームページ <http://hokudai-horse.xsrv.jp/index.html> の文章、写真、資料を参考とした。

写真提供

- 図1, 2, 3, 4) 北大馬術部創立四十年記念写真集(昭和49年7月刊行)
- 図5) 「東京五輪 馬術競技アルバム」(第一出版)
- 図6) 部報 昭和45年度 第6部
- 図7, 8, 9) 北海道大学馬術部ホームページ

脚注

- 注1) 「文武会」: 札幌農学校時代の学生・教員・卒業生からなる「学芸会」と、体育会系団体の「遊戯会」が明治34年(1901)に合併し「文武会」となった。
- 「北大の125年」北海道大学125年史編纂室編 平成13年刊
- 注2) 「櫻星会」: 予科の独自性を高め団結を図る目的から、明治44年に設立された教師・学生が一体となった親睦団体。
- 北大庭球部100年小史(100周年記念誌投稿)

馬場周辺航空写真



千001-0023 札幌市北区北 23 条西 12 丁目
 電話&Fax: 011-737-1626
 E-Mail: hokudaijajutubu@hotmail.co.jp
 地下南北線「北 24 条駅」2番出口を出て
 西(左)方向へまっすぐ徒歩約 15 分

Google Map より

馬場は 80 m × 約 139 m
 移動欄で区切る

水色破線内は北大構内

Google Map より

表 1 北大馬術部が最大の目標としている北日学と全日学の平成元年以降の成績

北日本学生馬術大会				全日本学生馬術大会			
1989 (H1) 8.4-7	北里大	総合 3位 馬場 優勝	仲村秀喜 (北銀号) 仲村秀喜 (北銀号) 中戸川周子 (北銀号)	10.31-11.5	障害 二走目失権	総合 耐久棄権	
1990 (H2) 8.8-12	帝畜大	障害 優勝 総合 優勝 馬場 4位	福庄光彦 (北皇子号) 堀川環樹 (北玲号) 真鍋いづみ (北玲号)	11.6-12	障害 24位	総合 24位	
1991 (H3) 8.8-12	北里大	障害 優勝 総合 優勝	高村理香 (北皇子号) 横山 勉 (北銀号) 堀川環樹 (北玲号)	12.10-16	障害 二走目失権	総合 30位, 耐久失権	
1992 (H4) 8.6-10	帝畜大	障害 5位 総合 3位	長谷川崇 (明日橙号) 祝前伸光 (北銀号)	11.11-15	障害 35位	総合 余力失権	
1993 (H5) 8.5-9	帝畜大	障害 3位	松原真史 (明日橙号)	11.10-14	障害 5位 松原真史 (明日橙号)		
1994 (H6) 8.4-8	北里大	総合 2位 馬場 4位	黒崎雅人 (北銀号) 河合由枝 (北銀号)	12.7-11		総合 失権	
1995 (H7) 8.8-13	帝畜大			10.31-11.5		総合 28位	
1996 (H8) 8.8-12	北里大	障害 3位 5位 総合 4位	中村晃史 (明日橙号) 池田智義 (北銀号) 池田智義 (北銀号)	10.31-11.3	障害 44位, 51位, 失権	総合 24位, 26位, 44位	
1997 (H9) 8.7-11	帝畜大	障害 2位 総合 5位	池田智義 (北銀号) 亀山 巖 (北銀号)	12.10-14	障害 59位, 失権, 失権	総合 耐久失権	
1998 (H10)	北里大	障害 4位	小谷友也 (北銀号)	11.24-29	障害 55位		
1999 (H11) 8.4-9	ノーザンホースP	障害 2位 総合 4位	大崎智弘 (北銀号) 尾崎智浩 (北銀号)	11.3-7	障害 39位, 42位, 失権, 失権	総合 44位	
2000 (H12) 8.3-8	原町馬事公苑	総合 4位	山本裕己 (北銀号)	11.1-5	障害 失権, 二走目棄権	総合 耐久失権	
2001 (H13) 8.8-13	ノーザンホースP	馬場 4位	国井千恵子 (北銀号)	10.31-11.3	障害 二走目失権		
2002 (H14) 8.9-15	原町馬事公苑	障害 4位	木村滋之 (ウッドバイン号)	11.10-17	障害 失権, 失権	総合 29位	
2003 (H15) 8.8-13	ノーザンホースP	総合 5位	竹田敏宏 (北銀号)	11.5-9	障害 46位	総合 12位, 35位, 42位	
2004 (H16) 8.7-11	原町馬事公苑	障害 2位 3位 総合 5位	前田晋也 (エルグレイ号) 一色真明 (北銀号) 一色真明 (北銀号)	11.2-7	障害 失権, 失権, 失権	総合 37位	
2005 (H17) 8.4-8	ノーザンホースP	障害 3位 総合 3位	前田晋也 (エルグレイ号) 一色真明 (北銀号)	11.2-6	障害 46位, 失権, 失権	総合 調教審査NC	
2006 (H18) 8.30-9.3	南相馬市馬事公苑	障害 4位	一色真明 (北銀号)	10.31-11.5	障害 22位	総合 42位	
2007 (H19)	クマインフルエンザのため開催中止			10.30-11.4	障害 27位, 失権, 失権	総合 耐久失権	
2008 (H20) 8.20-24	南相馬市馬事公苑	障害 優勝	山川倫明 (エルグレイ号)	10.31-11.5	障害 38位, 失権	総合 耐久棄権	
2009 (H21) 8.27-31	ノーザンホースP	障害 3位 総合 1位	野村基惟 (北銀号) 出戸裕人 (北銀号)	10.31-11.5	障害 38位, 失権	総合 余力失権	
2010 (H22) 8.26-29	南相馬市馬事公苑	障害 2位 3位 (障害団体2位) 総合 2位	山本栄輔 (北銀号) 平芳悠人 (北銀号) 出戸裕人 (北銀号)	10.23-27	障害 50位, 失権, 失権	総合 22位	

北日本学生馬術大会は5位以内の成績のみ記載

全日本学生馬術大会は全ての入馬の順位を記載

指導部報告

指導部より

一昨年10月指導部が発足してから2年あまりが経過しましたが、部報紙上をお借りしてこの1年の活動を報告させていただきます。

I. この1年（2016年1月-12月）の活動

1) 部馬の動静

・ピュアメモリーの離厩

ピュアメモリーは2013年に大浦牧場から入厩し、練習馬として使用されてきました。14歳と年齢的にはまだ使える年齢でしたが、故障が多い、歩様があまりよくない、初心者に対する安全など練習馬としても問題があることから4月30日（土）離厩させる判断となりました。離厩先は再び大浦牧場に引き取っていただくことができました。

・ドラゴンケーニッヒの入厩

かねてから、現有部馬の年齢構成、今後の調教若手OB確保の展望などから、1頭の新馬の導入を検討してきましたが、ドラゴンケーニッヒ（4歳、セン、黒鹿毛、2012年2月5日生、父：ディーパインパクト、母：カリ）がノーザンファームから10月8日（土）入厩しました。高額で取引された馬で、まだ4歳と若く、故障がないのは珍しいとのことで、大成が期待されます。

・チェリーアドミラルの離厩

チェリーアドミラル（23歳）は、北大馬術部にいたのは6年余りですが、その10年ぐらい前からアルバイト先としてマオイホースパークで乗せていただいたり、短期間北大に貸していただいたりして使用するなど、長期間お世話になった馬でした。まだ練習馬として貴重な存在でしたが、年齢による衰えが見られ、離厩を決断するに至りました。幸いマオイホースパークでまた引き取っていただけることになり、11月6日（日）に離厩しました。

・北焔（ファイアーマリオ）の離厩

ファイアーマリオ（22歳）は、2010年馬事公苑から入厩して以来、数少ない競技馬

として活躍し、今年も全日本学生馬術大会に出場しました。難しい判断でしたが、離厩させる決断をしました。高齢に加え、足元が丈夫でない、乗りやすい馬ではないなどの点もあり、引き取っていただける先がなかなか見つかりませんでした。幸い旭川乗馬クラブで引き取っていただけることになり、12月1日（木）に離厩しました。

II. ミーティング

昨年ほどではありませんでしたが、この1年間も指導部内、指導部と現役、新馬調教者の間で必要に応じて呼びかけ、話し合いがもたれてきました。

現役との懇談会など

・ 4月2日（土）

新馬調教OBの担当組み替えなどについて懇談した。また、これに先立って指導部と新馬調教OBとのプレミーティングももたれた。

・ 5月7日（土）

指導部・新馬調教担当若手OBと現役3、4年生の間で、「カノンコードの準備馬場での不従順」についてその原因と今後の対処について意見交換し、担当OBを変えるなどの措置をとった。今後の新緑大会、及び次の大会からの出場若手・現役騎乗者の組を決めた。その他、練習におい自分で課題意識をもって運動すること、それが難しければ、自分のレベルにあった馬場種目の一部分を繰り返し練習するとか、もっと部班運動を取り入れることなどの発言があった。

・ 6月12日（日）

部長、指導部、新馬調教若手OBの間で、「部活動において各部員の役割が固定化しているとの指導部の懸念」に対して、実情の把握や問題の解決の糸口を探るために、意見交換を行った。

・ 7月2日（土）

指導部・新馬調教若手OBと2年生以上の現役との間で懇談会を行った。指導部からの主題は、「部活動において各部員の役割が固定化しているとの指導部の懸念」を伝え、改善を図ることであった。具体的には、練習で騎乗している部員、試合に出場する部員が固定化しているように思われること、及び最近部員の退部が多いように思

われることであった。これらについて意見交換を行った。他には引き馬の大切さ、部班運動をもっと多くの馬で行う、号令のかけ方の統一、ジンギスカンパーティーなどの提案があった。いままでのミーティングと違い今回の特徴は2年生が多く参加したことであり、我々の考えていることを多くの現役に直接わかってもらう意味合いからは、意義があったのではないかと思われる。

指導部報告会（9月26日（日））

OB有志からの要望を受けて「指導部報告会」が農学部で開催された。出席者は14名でした。これに先立って7名のOB有志の方々から指導部に対し要望書が出されました。当日指導部からの報告の後、これに関連して部活動の現状、部員の意識、指導体制、財政支援などについて意見交換がされた。

Ⅲ. まとめ — 現状と今後の課題

1) 繋養馬と新馬調教

指導部発足当時20歳を超える馬が4頭、また借用馬2頭がいて、入れ替えによる世代交代と整理、新馬の導入・調教が急がれた。このため、老齢馬を離厩させ、借用馬の契約延長を行わなかった結果、昨年までの1年間で離厩馬4頭、入厩馬6頭と大幅な繋養馬の変動があった。それに比べ、この1年間は前述のように離厩馬3頭、入厩馬1頭と変動は大幅に減少し、ほぼ定常的な入退厩数に近づきつつあると考えている。

これらの新馬は指導部発足前にすでに入厩していた3頭を加えて現在8頭いるが、これらは若いOB3氏（江口（H25）、小山（H27）、中津（H28））により調教されている。このうち北咲（チェルシー）は馬体の状態が現状では障害飛越に耐えられないと判断し、馬場運動の他部班で使用されていること、ドラゴンケーニッヒは入厩間もなく調教が進んでいないことを除けば、他の6頭即ち、北騮（アップヒルティガー）、北鷹（シュガーシャック）、北響（カノンコード）、北稜（ダノンアンチョ）、北汐（タイダルベイスン）、北暁（ノーステア）、は大きな故障もなく概ね順調に調教が進んでいる。また、馬により状況によりOBから現役への調教主体の移行も進んでいる。北大馬場以外の会場でも大会ごとに経験をつみ、現在80-90cmまでの障害種目で皆ゴールしている。これからは全日本学生への権利獲得を見据えたレベルアップが必要であるが、来年の北日本学生大会には2-3頭が出場できるのではな

いかと期待している。

2) 部活動、練習

・ミーティングの項で述べた「部活動で各部員の役割が固定化しているのではないか」との指導部の懸念は、指導部内だけではなく多くのOBにも共通して危惧されている点であり、9月25日の指導部報告会でも議論された。

もとより、部活動の主体は現役部員であるから、問題が生ずれば部員同士が議論して自らが解決していくのが大前提である。以下はそれを前提にしての助言・希望である。部員の目的は、試合に出てよい成績をあげることが目的とするいわゆる「選手指向」型とそうでない型に「結果的に」分かれるのかもしれないが、みんな馬に乗りたくて入部したはずであるからほとんど皆が「乗馬指向型」であるはずである。したがって、部員全員にまず騎乗機会を保障する努力をするのが部活動の原則であろう。もっとも、この点については、かなり改善されてきていると思うが、一層の改善が望まれよう。大会出場選手についても同じことが言えるように思われる。馬体の状態、調教段階に配慮しつつも、現在よりも多くの部員に試合参加の機会を与えるべきと思われる。

・さらに大切なことは、「選手指向」型への扉が常に開かれていることであろう。早く上達する部員もいれば、大器晩成型もいる。練習の成果により、あるいは意欲の向上により、新たな選手が輩出しお互いに刺激しあい競い合うダイナミズムが望まれる。現状は選手層が固定していて、層が薄いという印象がぬぐえない。

・関連すると思われるが、最近退部する部員が多いのも気がかりな点である。部活動では、基本的には「数は力」の面があろう。部員が少ないと財政面でも、マンパワーの点でも、雰囲気という面でも活気を失うなど問題が多い。数が少ない学年は卒部まで（OBになっても）その影響が及ぶ。馬術部は運動部である以上「北日本・全日本学生馬術大会でよい（団体）成績を目指すという共通目的の共有」が大前提であるが、部活動におけるそれぞれの役割をお互いに認め、部員それぞれの目的に応じた活動が保証され、実現するような「多くの退部者を出さない部活動」を追求してほしいと思っている。これらの問題の解決には即効薬はないかもしれないが。

昨年度の報告にも記した内容に関しては、

・来年もさらに系統的な練習体系の構築が望まれる（特に1年生に対し）。もっともこれは、指導部の課題でもあるが。

・昨年述べた合宿については、12月末に実施したと報告を受けている。

その他、今後の検討問題としては、

・年間の大会スケジュールはかなりつまっている感じがする。開催時期、労力的及び財政的負担を考えると、1年間に参加している大会を整理し、それぞれの位置づけを再確認してみる必要があるように思われる（例えば、七大学戦などの貸与馬戦の位置づけなど）。

以上

(2017-1-15 文責 市川 瑞彦)

追記：北海道大学馬術部後援会版ホームページ「指導部より」の欄にこれまで指導部から報告した文が掲載されておりますので、併せてご覧ください。

前主将より

中 津 裕 太

昨シーズンについてはまず、約6年振りに北日本学生馬術大会が福島県で開催されるという年でした。久し振りの東北開催ということで、当時の大会の様子や注意点などを教えて下さったOB・OGの皆さまには本当にお世話になりました。東日本大震災の影響が大きかった地域での開催ということでご心配の声も頂きましたが、人馬共に怪我もなく、選手と馬の頑張りによって、大会の結果も出すことが出来ました。

ここ数年の馬術部は様々な変化が起きていると考えます。OB・OGの方々には、数年振りに馬場に足を運んで頂くと、馬の顔ぶれは勿論、部員の雰囲気や運営方法など「自分の頃とは変わったな」という印象をお受けになると思います。それでも馬が好きといういつの時代も変わらない気持ちで現役部員は頑張っています。是非応援をして頂ければ幸いです。

最後に井上先生を始め、指導部の皆さまには大変お世話になりました。頭を悩ます様々な問題も、親身になって相談をして下さり本当に大きな助けとなりました。この場を借りてお礼申し上げます。

活 動 報 告

《主将》

中 一 輝

北大馬術部は現在、部員17名（3年目4名、2年目7名、1年目6名）、馬匹12頭で活動しております。

今年は、東日本大震災以来5年ぶりに北日本学生馬術大会が南相馬市馬事公苑で開催されました。二走、総合に出場した2頭は全日の権利を獲得、小障害に出場した5頭は全頭目標の高さのコースをまわってることができました。試合後は帯広畜産大学と一緒に野外馴致を行い、刺激を受けました。学生馬術で東北の復興を後押しできたということも嬉しく感じています。また、一年生の羽二生が全日本学生女子選手権大会で7位に入賞したことも嬉しい報告の一つです。

また、今年は冬季休暇を利用して、二日間部室に泊まり込みの北大合宿を行いました。午後の騎乗練習や、部の方針に関するミーティング、レクリエーションなども交え、チーム力を高める有意義な合宿になりました。

一昨年から作り始めていた馬術部マニュアルが完成したこともご報告いたします。馬術部に入ったばかりの新生に、馬術部はどのような活動をしている部活なのか分かるようにするために作りました。毎年改訂し、よりよい部活づくりにつなげていきたいと思えます。

馬匹に関しましては、ピュアメモリー号、チェリーアドミラル号、北焔号が離厩いたしました。特にマリオの離厩先については悩むところも多かったのですが、たくさんの方の協力が無事によい離厩先を見つけることができました。この場を借りて、部員一同よりお礼申し上げます。また、新馬につきましては、OBの川崎さんの紹介でノーザンホースパークよりドラゴンケーニッヒ号が入厩いたしました。新馬調教に関しましては引き続きOBの方々に見ていただきながら行っています。今後、現役部員が調教に関われることをさらに増やしていきたいと思えます。

最後に、日ごろからの馬術部への多大なご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。北大馬術部を、全国に通用するチームに作り上げていきたいと思えます。まずは、北日で団体を組めるよう調教を進めます。これからもよろしく願いいたします。

《副将》

井 畔 貴 之

今の北大馬術部にはさまざまな目標を持った人が集まっています。自分の役職を最後まで全うしたい人、自分の好きな馬の成長を見届けたい人、馬に乗るのが楽しく少しでも多く馬に乗っていたい人、そして北日本、全日本の大会に出場して、結果を出したい人など様々です。過去の北大馬術部はそうではなかったかもしれませんが、近年このような状態が続いています。このことはぜひご理解お願いします。多様な考えをもつ人がいる現状、社会と同じように、お互いがお互いを知り、尊重することが大切になりますが現在それが十分にできていないと思うことも多々あります。簡単ではないと思いますが、お互いを理解しあえる部活が理想の形だと思います。副将はそのような部活づくりを率先して行うことが大きな、そして重要な仕事であると思います。

現在のところ副将の仕事は、バイト先との連絡とバイト、当番の人員作成、大会人員の作成、このような事務的な仕事は例年通り行いこれにプラスして自分が行っているのは部員と積極的にコミュニケーションをとることとほかの役職の内容に関しても積極的に改善点を探すということです。部員、部活に対して気配りのできる副将を理想に掲げています。

また、部員だけの頑張りではどうしてもできない問題に今後直面すると思います。そのときはどうかOBの方々のお力をお借りしたいと思うので今後ともよろしくお願いします。いい報告をたくさんできるよう、今年も精進してまいります。

《主務》

本 丸 尚 人

まず初めに、今年度の「主務」は前年までとは体制が変わったことをこの場を借りて報告させていただきます。具体的に申し上げますと、「主務」と「運営長」という2つのリーダーに分けて活動を行っていきます。この2つのリーダーが今までの「主務」という1つの役職の仕事を担当する形になります。新体制での「運営長」の役割は大会関係の業務をこなすこと、「主務」の役割はそれ以外、例えば学校との連絡ということになります。運営を行う部員のトップが、自分より1つ下の代しかおらず、負担を分散させるといった意味合いでこのような措置をとることになりました。そのため、基本的な活動としては今まで運営という役職が行ってきたものと相違ありません。現状、この「主務」と「運営長」は明確に区分できていない点もありますが、おの1年間で区分をし、運営の1つの形として確立させられればと思います。

自分個人としては、書類の作成・掲示板の更新を受け持つことになります。自分はこの「主務」という役職から初めて運営に携わることになるので後輩たちのほうが分

かっていることは多いですが、後輩たちが仕事をしやすいように進捗状況の確認等、環境づくりができればと思っています。

最後に、前年度は掲示板の更新が遅れてしまうという事態がたびたび起こってしまい申し訳ありませんでした。今年度はできるだけ早く、正確な情報をOBの方々へお伝えできるよう心掛けたいと思います。至らない点もあると思いますが、ご理解、ご協力よろしくお願い致します。

《運営》

大木 八 恵

新しくできた運営長という役職に就きました、大木です。これまで運営のリーダーが主務でしたが、前主務が退部しこのままでは人数に対して運営の負担が大きくなりすぎるということで、とりあえず来シーズン中は主務と運営長を分担することになりました。運営長とは、主に大会関係を取り仕切るリーダーです。私は1年目は作業にいたため、大会運営に関わって1年しか経っていません。そんな私が運営のリーダーを務められるのかは不安ですが、少ない人数の中で同期と後輩と力を合わせて頑張っていこうと思います。

《馬匹長》

上野 健 太

現在、馬匹は二年生1人、一年生2人の体制で活動しています。前年度と比して人数が半減してしまったため、当初は戸惑うこともありましたが分掌業務の再編、他の役職との協力を進めた結果、現在は円滑に業務に取り組んでいます。

現在の業務内容は馬匹、犬猫の管理、飼料及び寝藁、牧草の管理発注、ボロ山の管理などとなっています。

これらの業務のうち寝藁、牧草の調達について今年は調達先及びその方法に大きな変化がみられます。昨年までは寝藁については帯広畜産大学OBで、長らく懇意にさせていただいていた中曽根様よりいただいておりますが、営農をお辞めになる都合上、本年より寝藁については自弁調達となることが確実となっています。また牧草についても現在初夏から夏にかけてマオイホースパーク様からご好意でいただいている牧草の量が昨年までよりも減ることがほぼ確実となっています。これらについて、発注先や量など馬匹内や部全体でも現在検討作業を行っています。相応の支出の増加が見込まれるため、慎重に検討を進める必要がありますが活動に影響が出ないよう早期決定を目指します。

まだまだ稚拙な面が目立ってしまうとは思いますが、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

《作業》

杉田 優

今年は春での半澤用のパドック作りに始まり、半年ほどをかけてバンケットの修理、そして冬は放牧用のパドック作り、厩舎の鳩ネットの付け直しなどを行いました。大雨の影響で配線が壊れたからかD型の扉が壊れたり、厩舎の蛍光灯の調子がよく悪くなったりと建物、施設に少々ガタが来始めているのかもしれないと思う年でした。来年はとりあえず様子を見ていきたいです。

また来年はノーザンからいただいた丸太などを使って野外障害を作り、より一層北大での野外馴致を充実したものにしていきたいです。

そして頭絡など馬具の痛みが目立つので、馬具の予算を会計と作り、1年かけて新調していきたいと考えています。

1年間、よりよい部活を作るため頑張っていきます。

《会計》

矢渡 光

今年の会計報告と去年のそれを比較すると収入が大きく下回り、逆に支出が多くなっていることに目が付きます。

収入面では去年はイレギュラーなものが多いため単純な比較をすることはできませんがそれを除いても多少収入が少なくなっています。原因としましてはお世話になっているバイト先の雇用状況の変化によりバイト自体の絶対数の減少も挙げられますが、部員の減少というのが大きいのではないかと考えられます。支出面では今年は数年ぶりに北日本学生馬術大会が福島で開催された関係で昨年までよりも多くなったことが一番の問題であると思われれます。

結果的には総収入が総支出を約60万上回り、現在の馬術部の総資産は約730万円となっています。

さて、今年1年で部活の会計に関する大きな変化に関して簡単に報告させていただくと部活で所有する車が保険金等の問題により北大モータース様からレンタルさせていただく形になったことや、懇意にさせていただいていた酪農家様の離農に伴う乾草・敷料の不足等があげられます。特に乾草の問題に関してはまだ先行きが不透明であり、打開策が見つからない状況下にあります。

部員一同これらの問題に対処し、より安定した部活の運営に励んでいく所存です。
当部活の財政もまだ安定しているとは言い難い状況にあるため、今後ともOB、OGの方々には何卒ご支援・ご助力のほどよろしくお願いいたします。

作業 備品 馬備：厩舎や部室、馬場の設備管理費及び馬具購入費

通信：電話使用料及び、諸関係機関との連絡費

馬匹 薬品 飼料：繁養馬の健康管理に関する物品や薬購入費及び新馬去勢費、飼料薬品購入費

装蹄：装削蹄費

交通：バイトや大会へ行くための交通費及びガソリン代

大会関係：一部エントリー代、入厩料、選手交通費及び宿泊費

平日バイト：平日にバイトに入った場合の補助金

砂代：馬場に入れた砂代金

会 計 報 告

昨年度繰り越し 6,738,472

今年度収入

部費	1,385,000
アルバイト	4,021,124
補助金	1,358,745
大会収入	2,105,141
その他	310,200
寄付	195,600
計	9,375,810

今年度支出

馬匹・薬品・飼料	3,200,874
装蹄	1,249,236
大会関係	1,761,848
馬輸送費	1,417,200
作業・備品・馬備	514,698
交通	514,487
平日バイト代	123,340
砂代	129,600
雑費	199,009
通信	31,865
計	9,142,157

今年度繰り越し 233,653

ソウケイ
総計 6,972,125

◆ 2016年度 戦績 ◆

●30回 北海道新緑馬術大会

(於:ノーザンホースパーク 5月21日~22日)

☆標準小障害A				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	宮永 美寿津	ポーカーフェイス	ノーザンホースパーク	0	0	46.49
2位	宮永 美寿津	アナベル	ノーザンホースパーク	0	0	47.49
3位	今浦 一輝	騾麗	酪農学園大学	0	0	49.89
4位	高橋 春南	北創	北海道大学(3)	0	0	52.79

☆標準小障害C				減点	タイム
1位	中野 拓也	フォゲッタブル	ノーザンファーム	0	56.04
2位	西坂 夢乃	デルタブルース	ノーザンファーム	0	60.79
3位	清水 健人	ナバロン	ノーザンファーム	0	65.84
7位	松井 亮	スタークイン	RCメインフィールズ	0	71.84
16位	羽二生 香成	北鷹	北海道大学(1)	5	82.19
20位	高橋 春南	北駈	北海道大学(3)	8	75.34

☆標準小障害B Part1				減点	タイム
1位	谷川 衣里子	太陽のマライカ	早来エクワインファーム	0	61.09
2位	楠木 貴成	ジャガーメール	ノーザンファーム	0	64.94
3位	梁川 正重	ピッコロ	RCメインフィールズ	0	68.64
5位	高橋 春南	北稜	北海道大学(3)	0	70.54

☆ステップアップジャンピング60				減点	タイム
1位	今村 唯	クレオパトラ	乗馬クラブテキーラ	0	56.74
2位	今村 唯	ミルキーウェイ	乗馬クラブテキーラ	0	57.94
3位	鈴木 悠里子	ベストワルツ	早来エクワインファーム	0	65.09
4位	杉田 優	北響	北海道大学(3)	0	69.04
5位	井畔 貴之	北稜	北海道大学(2)	0	70.19
6位	江口 瞭太	北暁	北海道大学	0	75.29

☆標準小障害C				減点	タイム
1位	奥田 ジョンマルロウ	ナバロン	ノーザンファーム	0	62.64
2位	羽二生 香成	北稜	北海道大学(1)	0	66.04
3位	井関 明彦	ラインハート	RCメインフィールズ	0	68.59
7位	高橋 春南	北駈	北海道大学(3)	0	76.08
13位	小山 寛	北響	北海道大学	4	97.54
棄権	羽二生 香成	北鷹	北海道大学(1)		

●第63回 北海道体育大会

兼 第71回国民体育大会馬術競技北海道ブロック大会

(於:ノーザンホースパーク 7月23日~24日)

☆馬場馬術競技A2課目 Part1				得点率
1位	鈴木 悠里子	コーイヌール	早来エクワインファーム	58.725
2位	谷川 衣里子	太陽のアトラス	早来エクワインファーム	58.431
3位	谷川 衣里子	太陽のアスラン	早来エクワインファーム	56.568
4位	杉田 優	北響	北海道大学(3)	54.411
5位	矢渡 光	北響	北海道大学(2)	52.646
7位	高橋 春南	北駈	北海道大学(3)	50.882

☆標準小障害A				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	吉田 勝巳	フェットウデモン	ノーザンホースパーク	0	0	52.89
2位	神山 啓	騾麗	酪農学園大学	0	0	59.69
3位	吉田 勝巳	アナベル	ノーザンホースパーク	0	0	62.04
5位	高橋 春南	北稜	北海道大学(3)	4		

☆標準中障害D				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	羽二生 香成	北焔	北海道大学(1)	0	0	58.79
2位	田口 貴也	ルジェリ	早来エクワインファーム	0	16	
3位	吉田 詩織	テノリオ	酪農学園大学	8		

☆成年女子標準中障害C				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	白川 萌仁香	ウイコジャック	早来エクワインファーム	0	0	39.44
2位	広瀬 楓	ザメントス	チェスナットファーム	0	4	
3位	中垣 彩也加	アムールウイング	ライディングファーム・フセ	4		
7位	高橋 春南	北創	北海道大学(3)	12		

☆標準小障害C Part1				減点	タイム
1位	高垣 春香	ハギノマルゲリータ	帯広畜産大学	0	71.49
2位	山田 杏里	騾臈	酪農学園大学	4	68.04
3位	森 和博	レオポルド	ほくせい乗馬クラブ	4	74.67
9位	上野 健太	北稜	北海道大学(2)	8	90.74

☆標準小障害B				減点	タイム
1位	宮久 拓巳	アニメイテッド	ノーザンファーム	0	52.04
2位	藤原 拓也	ナパロン	ノーザンファーム	0	58.54
3位	橋本 樹	アニメイテッド	ノーザンファーム	0	58.64
7位	高橋 春南	北驩	北海道大学(3)	1	78.89

☆成年女子中障害C S&H				タイム
1位	広瀬 楓	ザメントス	チェスナットファーム	74.39
2位	白川 萌仁香	ウイコジャック	早来エクワインファーム	76.29
3位	中垣 彩也加	アムールウイング	ライディングファーム・フセ	0
7位	高橋 春南	北創	北海道大学(3)	89.43

☆標準小障害A Part2				減点	タイム
1位	中村 萌々	フリーデンスクイン	静内農業高等学校	4	59.04
2位	中神 美渚	リッキー	浦河高等学校	4	59.69
3位	梁川 正重	ピッコロ	RCメインフィールズ	4	65.34
5位	高橋 春南	北稜	北海道大学(3)	4	68.69

☆標準小障害B Part2				減点	タイム
1位	北山 大貴	アニメイテッド	ノーザンファーム、	0	57.94
2位	菅原 美央	ラバスII	帯広畜産大学	0	62.59
3位	北野 杏成	フリーデンスクイン	静内農業高等学校	0	65.54
6位	高橋 春南	北驩	北海道大学(3)	6	76.44

☆標準小障害C Part2				減点	タイム
1位	井関 明彦	ラインハート	RCメインフィールズ	0	59.89
2位	井畔 貴之	北稜	北海道大学(2)	0	64.19
3位	松田 芽衣	騾臈	酪農学園大学	0	64.74
4位	杉田 優	北響	北海道大学(3)	1	69.44

●全日本学生馬術大会2016

(於: JRA馬事公苑 10月26日~11月2日)

☆学生賞典障害飛越競技				1走目減点	1走目タイム	2走目減点	2走目タイム	合計減点	合計タイム
第1位	吉永 一篤	桜照	日本大学	4	74.58	0	77.07	4	
第2位	今橋 裕晃	桜珀	日本大学	4	72.94	1	78.85	5	151.79
第3位	杉本 葵生	コンエアー	同志社大学	5	79.58	0	73.31	5	152.89
第33位	渡邊 怜平	騾臈	酪農学園大学	12	73.92	24	76.9	36	
第48位	萬浪 大輔	騾天狼	酪農学園大学	16	90.27	2反E			
第54位	吉田 詩織	テノリオ	酪農学園大学	39	86.91	2反E			
E	羽二生 香成	北焰	北海道大学	2反E					
E	岩本 佳祐	柏桜	帯広畜産大学	2反E					

☆学生賞典総合馬術競技				調教減点	耐久減点	余力減点	総減点
第1位	中村 幸喜	明鳳	明治大学	46.6	0	0	46.6
第2位	今橋 裕晃	桜覇	日本大学	48.800	0	0	48.8
第3位	渡邊 瑞生	桜虎	日本大学	48.000	1.2	4	53.2
第29位	羽二生 香成	北創	北海道大学	63.600	55.6	0	119.2

第35位	池内 あやか	柏艶	帯広畜産大学	69.200	64.8	12	146
第38位	小嶺 杏慶	柏楓	帯広畜産大学	63.7	122.4	12	196.1
E	吉田 詩織	テノリオ	酪農学園大学	69.6	30.8	2反E	
E	中村 幸雄	柏酔	帯広畜産大学	71.4	落馬E		
E	水上 桃香	柏蓮	帯広畜産大学	81.0	制限時間E		
E	高垣 春香	柏晴	帯広畜産大学	77.0	落馬E		

●第54回北日本学生馬場馬術定期新人戦

(於:東北大学 11月20日)

☆予選Aブロック				得点率
	菅野 隼人	杜秋	北海道大学(1)	54.265
	熊倉 大騎	杜太郎	北海道大学(1)	52.353
	須藤 美瑛奈	オリオンボーイ	北海道大学(1)	49.706

予選Aブロック2位

※上位1位が決勝進出のため予選敗退

●第38回国立大学対抗馬術大会

(於:群馬県馬事公苑 12月4日)

☆予選Dブロック				減点
	上野 健太	錦王	北海道大学(2)	4
	井畔 貴之	マロンプティ	北海道大学(2)	9
予選Cブロック1位				
☆決勝				減点
	上野 健太	ノアパンチ	北海道大学(2)	189
	井畔 貴之	ミルククラッシュ	北海道大学(2)	8

団体成績3位

●第52回 全日本学生馬術女子選手権大会

(於:JRA馬事公苑 12月3日~4日)

1回戦Eブロック				得点率				
	佐々木 やまと	広島大学	エクスパライド	危険防止E				
	羽二生 香成	北海道大学(1)	エクスパライド	56.212				
	柿平 紗枝	日本大学	エクスパライド	58.106				
	濱砂 佳奈子	京都産業大学	エクスパライド	55.606				
2回戦Lブロック				得点率				
	羽二生 香成	北海道大学(1)	東冠	59.47				
	服部 真緒	東京農業大学	東冠	62.879				
	高田 舞佳	岡山理科大学	東冠	52.727				
	田中 奈津乃	東京農業大学	東冠	59.091				
準決勝			馬場馬術競技	得点率	馬場総得点	障害飛越競技	減点	2種目総合得点
	細川 映里香	日本大学	モンドール	62.197	410.5	桜閃	0	410.5
	服部 真緒	東京農業大学	モンドール	60.455	399	桜閃	1	398
	石山 晴茄	早稲田大学	モンドール	60.606	400	桜閃	0.5	399.5
	羽二生 香成	北海道大学(1)	モンドール	60.152	397	桜閃	2	395

※上位2名決勝進出により準決勝敗退

調教報告

◆北創号◆



セン サラ 黒鹿毛
平成13年4月9日生
北海道日高群新ひだか町産
父 サクラローレル
母 サクラヒーロー
平成18年6月24日入厩

高橋春南

今年、北創（スペ）を担当させてもらい、「全日で入賞すること」を目標に立てました。

結果から言うと、馬の能力に人の技術が全く追いついていませんでしたし、精神的にもレベルに達していませんでした。全日の二週間前に、北大の馬場で障害の練習中、人馬転をして鎖骨を骨折してしまい、全日出場はなりませんでした。スペは膝を擦りむくだけで済んだことは不幸中の幸いでした。二走と総合の権利は獲っていたので、全日では二走は棄権し総合は羽二生に乗ってもらいました。なぜ一年生の羽二生に任せたかという、二週間という短い期間でスペで全日に出場できるだけの技術と気持ちが備わっているのは羽二生であると判断したためです。

スペと経験したことで伝えたいことは二つあります。一つ目は早来エクワインファームに滞在したときのことについて、二つ目は南相馬市馬事公苑での北日本学生についてです。

国体予選前の3日間、輸送の関係で早来に滞在する機会があり梁川さんに見ていただきました。早来で行った練習では主に次の障害を使いました。

- ① | X | II (横木 - 2.7m - クロス - 3.0m - 横木 - 3.0~3.5m - 垂直またはオクサー)
 - ② I I I I (間隔6.5mの垂直4本、最高で100cm、4本同時に上げていく)
 - ③ 直線のライン、バンディングのライン、リバプールなどを含むミニコース
- ②は速歩で入り、最後の障害は練習の最後は130cmくらいまで飛びました。手前の横木・クロス・横木は単発障害を失敗しないためと、踏み切るときに強くはたくために

置いています。

②は、馬の飛越練習で、障害を飛ぶときに突っ込んでしまう馬はバランスを起こすようにし、バランスが起きすぎてしまう馬は飛びつくようにする目的で行いました。人の随伴の練習にもなります。最初は低いところから始めます。高さに慣れるのが目的ではなくバランスを向上することが目的なので、高くても100 cm程度の高さにします。

③は、①②の後に行いました。コンビネーションの後につなげてラインに入るような練習も行いました。

早来の馬場にはこのようなコンビネーション障害が馬場の両端、障害のミニコースが馬場の中央に常に置いてあり、定期的に障害を組み替えていました。馬によって障害を組み替えることはしないで、全頭同じ物を使っていました。このように馬場の障害の配置を決めておいて、テーマを決めて全頭同じ練習をするのも練習方法の一つだと思います。今は馬ごとでメニューを変えています。これなら一日でキャバレッティ、コンビネーション、ミニコースなど複数の練習がしやすいし、週に一度行っているミーティングで目的や気をつけることなどを部員みんなで共有できるようになると思います。

また、練習終わりには馬場の外を放棄手綱で歩かせリラックスさせました。この時に砂の上だけでなく、コンクリートの上を歩かせましたが、それは腱を強くし、怪我の予防になります。馬を馬房から出してから運動して帰すまでは一時間程度で、手入れは丁寧にきばきと10分程度で終わらせます。一日に数時間、小さなパドックで放牧していました。早来の馬たちはみな幸せそうに見えました。可能なことは取り入れたいと思います。

次に、南相馬市馬事公苑の北日本学生馬術大会について述べさせていただきます。まず二回走行については、障害の高さはさほど高くなく、派手なものはなく、若干難しい回転はありましたがスベには余裕でした。総合の余力審査についても同様です。しかし、コースでどどん口が強くなってしまい、後半には手綱が伸びてしまいました。これについては、北大での練習でもコースに近い状態に持っていき、その状態でも人と馬の関係を普段通りにすることを課題にしましたが、最後までできませんでした。北大で、スベのやる気スイッチを入れるのは難しいです。

総合の野外については、走路からスタートし、森の中に入る形でした。スタートでスイッチが入りきらず一番障害はどんづまり、そのあと不安だった穴障害で二回拒止してしまいました。その後、穴障害のトラケネンで拒止してしまい、三反抗のギリギリの状態で何とか完走しました。反抗減点で順位を大きく落とし、第9位でのゴール。他地区からの余剰枠で拾ってもらい、全日の権利を得ました。うまくいかなかった

た原因は、スタートでスイッチを入れられなかったことと、人の判断ミスでした。スぺなら余裕で飛べるだろうという判断ですべての障害をショートで行く作戦でしたが、一回反抗したらすぐにロングコースを選択すればよかったと思います。タイム減点よりも反抗減点のほうが大きいです。帯広畜産大学はほとんどの人馬がロングコースを選択し、反抗減点無しで帰ってきていました。

再来年は北大からは南相馬の野外を経験したことのない馬たちが多く出場すると思います。森に入ってすぐの丸太の障害で拒止する人馬が多くいました。一番気を付けるところだと思います。カンゴウが多くありますが、これらは北大やノーザンでの馴致ではなかなかできないので、今年の帯畜のように新馬はロングを選択し、確実に駆けそうな馬以外は完走することを優先してほしいと思います。あとは、高さも幅も大きな障害が多くあります。森の中には木や切り株がたくさんあり、通るところはしっかり頭に入れないとまぐ障害に入れないようなところがあるので注意が必要です。走路の中に入るときの坂道もかなり傾斜があり降りた後すぐに池がありますが、コースの後半なので、それまでにいいリズムを作れば大丈夫だと思います。南相馬のコースは帯畜がとても得意なので、機会があれば教わることもできればいいと思います。

北大の普段の練習では、肢の負担を減らすために普段はひたすら横木の駈歩キャバレッティーと、横木ラインで歩数の調整の練習をしました。強い運動がしたい時に、コンビネーションで高さを付けたり、早来で使った障害をしたりしました。

最後に、私の反省点として、

- ・一年を通してのビジョンがしっかりしていなかったこと
- ・できないことを一人でやろうとしてしまったこと

が挙げられます。怪我をしたのもこの二つが原因だと思います。技量云々の前に担当者として必要なことで当たり前のことです。一年生の時からスぺに乗るつもりで取り組んできました。しかし、足りなかったです。スぺの担当は変わりますが、来年は絶対に後悔しないようにやれることをやろうと思います。

また、部の目標である「団体で全日入賞」を達成するためには、人馬ともにレベルを上げることが必要だと思いました。まず来年は、できるだけ多くの人馬を北日にデビューさせ、完走することが目標です。新馬を育てて、スぺにはもう少し楽をさせてやりたいです。今年もお疲れさまです。ありがとう、スぺ。

この先は羽二生に書いてもらおうと思います。

羽二生 香 成

11月の高橋姉のアクシデントにより、全学出場が厳しいということから、乗り代わり、全学に出させていただくことになりました。私にはマリオ（北焔）がいたので、二走はマリオで、総合はスベで出場ということになりました。スベの二走の権利を無駄にすることは申し訳なかったですが、やむをえませんでした。ほくだいホースショーから全学までの2週間について書かせて頂きます。その短期間で大きく馬を変えたり、新たなことを始めたりすることはできなかったのも、少しでもよくできるように具体的に何をしたかを書いていきます。

私が乗り始めたのは、ほくだいホースショーの三日前。それまでは1度もしっかりと乗ったことがなく、乗り代わりが決まってから本当に一からのスタート。北大の馬場では中津兄と高橋姉に見て頂き、“頭の位置を高く、ハミにしっかり出して乗る、運動中は休まない、楽をせずに乗る”ということを教えて頂きましたが、私にはそれが上手くできず、ただ私だけ必死になって馬は全然動いてこない、障害に向ければ飛ぶは飛ぶけれど、全くいい状態ではない。といった感じでした。ホースショーでは100cmと110cmに出場しました。準備馬場では練習の時と同様、全く動いてこず、経路もなんとか飛ばせて帰ってきたような走行でした。その後調整する時間はなく、そのまま輸送となりました。

馬事公苑では、総合が始まるまで1週間ほど時間がありました。“馬事公苑に行けば馬が変わるから”と言われていましたが、初日に運動をした限り、ほとんど変わりはありませんでした。

その次の日、中津兄が来て、練習を見て下さいました。その時に初めて、頭を低くして、その中で動かしていく、といった運動をやりました。私にとっては、頭を低くしてハミに出していく、という運動の方が、前に出しやすく、とても乗りやすく感じました。その時のスベは右にばかり乗ってきて、全く左に乗ってきませんでした。右内方姿勢を深くとって左に乗せ、ゆっくりまっすぐに戻す、ということを繰り返しましたが、まっすぐに戻すとそのまま右に戻ってきてしまいます。新たな問題点は見つかりましたが、それまでの前に出ず人間がただ疲れてしまうという状況は打開しました。

その後、明治大OBの柘植さんに、練習のビデオを見ていただき、どのような運動をすればよいか、何を求めればよいか、など、全てを指導していただきました。馬を推進しながら顎が手元にくるように。内方姿勢からの顎の柔軟。常歩、速歩でのレッグイールドディングをたくさん。指示して頂いたことは、だいたいこのようなことでした。翌日はこれらのことを忠実に行いました。右にばかり乗ってくる癖は治らないものの、軽く動くようになり、純粋にスベが乗りやすい、と感ぜられるようになりました。

その翌日は、平芳兄に練習を見ていただきました。前日同様、最初はゆっくりの中で一步一步ハミに出していき、顎を譲らせる。だが低くなりすぎて前に体重が乗りすぎないように。一通り、馬場の運動を行い、馬を柔らかくした後で、90cmくらいの低い単発障害をやりました。あくまでも頭は低く、そのFWの中で障害を飛越する。はじめは、ぼっこんと飛ぶような飛びでしたが、だんだんと繰り返していくうちに、軽い扶助で前に出て、しっかりと障害に飛びつけるようになっていきました。ここまで来てようやく、スぺのことが理解できてきて、イメージがついていきました。

そして迎えた調教審査。結果をいうと、私が経路を間違えそうになったり、反対駈歩でミスしたりなど、もったいないミスがあり、57.6%で調教審査を終えた。特に駈歩区間の点数が悪く、やはりそれはだんだんと馬が伸びてきてしまって、詰まったところでの運動ができなかったことが原因。もう少しましな得点を出したかったが、私の力不足でした。馬がしっかりと起きた中で収縮、伸長ができるようにし、運動の後半になっても軽い状態を維持できるようにする、ことを来シーズンの目標としようと思います。

次の日の耐久審査は、乗り代わってすぐであり、また私にとって初めての野外であったので、人馬共に無事に帰ってくることを第一の目標としました。平芳兄と中津兄に下見を一緒にしていただき、私の経験のためにも、スぺの能力的にも、基本的にはすべてノーマルで行く、と決めました。実際にスタートしてみると、スぺのスイッチが完全にオンになり、私はただ乗っているだけでした。ですがFWの時と同様、やはり右ばかりどんどん強くなっていき、右に曲がらないという状況がどんどん悪化していきました。走行中は何もできず、結果として3つほどロングを選択することになってしまいましたし、曲がりきれなかったところがいくつもあり、スぺとしてはあまりよくない結果で終わりました。しかし最低目標であった“スぺと一緒に無事に帰ってくる”ことは達成できたのはよかったかなと思います。右も左もわからない私を乗せて完走してくれたスペリオールには本当に感謝しています。ありがとうスぺ。

最後の余力審査では、準備運動を平芳兄と大浦牧場の大浦さんにみて頂き、長く低いところでゆったり動かし、徐々に動かしていきました。走行は、全体的に詰まっていたが、ホースショーの時とは違い、その時よりはよい状態で回ってこられたし、結果としても満点でかえってくることができました。

最終29位でスぺとの総合を終えました。

以上が私と北創の2週間です。

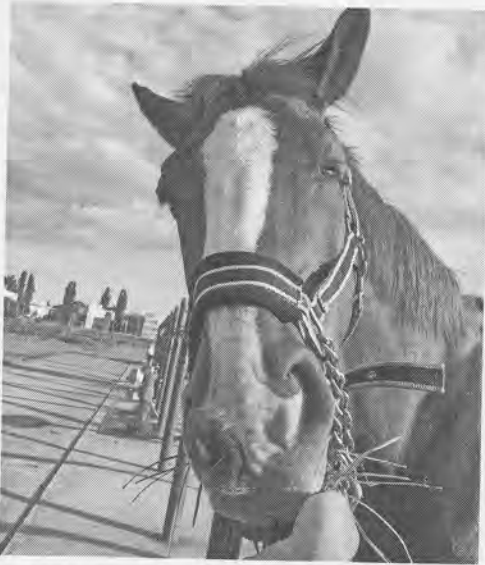
長々と書いてしまいましたが、今回の全学は、私自身の貴重な経験になりましたし、大きな自信にもなりました。来シーズンに向けて、課題を一足早く見つけることもできました。私にスぺを任せてくださった高橋姉、部員の皆さん、また熱心に指導してくださった中津兄に心から感謝しております。また、上手く乗れず路頭に迷っていた

私を救ってくださった、柘植さんと平芳兄に、本当にお礼を申し上げたいです。指導していただけることのありがたみを改めて感じました。このお二方のアドバイスがなければ、スベとこのように全学を終えることもできなかったと思います。ありがとうございました。

また、部員皆さんには、申し訳ないほどにたくさんサポートしてもらって、本当に感謝しています。周りの皆さんのサポートがあったからこそ、怒涛の2週間を乗り越えることができました。ありがとうございました、心強かったです。

来シーズンもスベとコンビを組ませていただくことになっているので、今回得たことをしっかりと来季へとつなげて、スベの最高成績を目指して精進して参ります。皆さんのスベへの期待に応えられるように、精一杯頑張るのでこれからも応援よろしくお願いいたします。

◆北菓号（ログキャビン）◆



セン サラ 栗毛
平成8年3月8日生
アメリカ産
父 Woodman
母 Great Christine
平成21年9月15日入厩

平 澤 礼 奈

今年の5月から馬責という形でログに関わり、9月に前任者から引き継ぐ形でチーフに就かせて頂きました。ログは昨年、高齢のため競技馬を引退し今は練習馬として主に下級生の部班運動、障害の経路周りなどで活躍してくれています。今まで、ログには沢山の上手な先輩方が乗って北日全日を目指してこられたので、技術も知識もない自分にログのチーフが務まるのだろうかとても不安でした。（今も不安です。）しかし、今年で21歳の高齢な馬を担当したからには、誰よりも馬体管理を徹底的に行い、無理はさせず、ログが元気でこの北大馬術部をはなれ新しい場所に送り出されることを第一の目標と考え心を尽くす毎日です。

まず、馬体管理についてですが、私がログに関わり始めた時はちょうど半澤杯が終わった頃で、背中と腰がかなり痛そうでした。腰の痛みが後肢の跛行につながっている時もあり、しかし練習馬である以上ある程度の鞍数をこなさなくてはならず、あまり休ませることもできないので、出来るだけ腰背中の状態を良くすることがシーズン中の課題でした。具体的には、できる時は毎日朝夕20分程度の温浴をし、できない時には20分程度のマッサージ、痛みが酷そうな時にはパスタを塗るなどをしました。マッサージと温浴が良かったのか、元々悪かった腰の状態も夏秋とだんだん良くなり冬の今では練習の鞍数が少々多くても腰が張ることはほとんどなくなり、正反動を取り入れた練習も普通にこなせるようになりました。しかし、温浴をやりすぎたことの弊害として秋前から前肢の蹄がボロボロになってしまいました。これは、お湯が蹄の裏から吸収されて蹄が湿ってしまったことが原因らしく、温浴の後蹄をちゃんと乾かすなどしていれば防げたことであるのでログにはとても申し訳なく思います。気づいてからは温浴前に蹄の裏に蹄油を塗るなどしていましたがあまり効果はなく、裸蹄にしてしばらくたった今は少しずつ綺麗になっていますが、来シーズンは温浴は控えてマ

ッサージ中心にしていこうと考えています。

練習についてですが、ログはすでにほとんど完成された素晴らしい馬であり、未熟な私がログにできることはほぼなく、逆に色々なことを教えてもらう日々です。その中で意識していることは、下級生の練習のため毎日3鞍程度の運動をできるようにする、基本的な扶助を繰り返し確認し誰でも乗れる乗りやすい馬という状況を維持する、新入生でも扱いやすい馬になるよう人と馬の関係性を築く、の3点です。下級生が乗った後私が乗り直しをする機会がおおいのですが、その時は基本的な扶助に正しく素早く反応できるまで繰り返し、また輪乗りを多く行って内方姿勢を取り身体を柔らかくし、最後はだんだんと馬の頸を下げさせて出来るだけリラックスして、また乗り直しの時間を短く終われるように心掛けています。しかし、私だけでは不足な点も多く運動面での馬体の状況を維持するために先輩や同輩に沢山助けて頂いています。これからも馬に教わり、人に教わり、少しでもログのためになるチーフになれたらと思います。

ログは高齢のため来シーズン終わりに離厩することが決まっています。ログと過ごせる時間はあとわずかですが、北大を離れるその日まで毎日元気に過ごせるよう心を込めて接し、今まで教えてもらったことの恩返しができると思います。

◆北魁号（トウカイフラッグ）◆



セン サラ 青鹿毛
平成14年4月16日生
北海道新冠町長浜牧場産
父 プライアンズタイム
母 トウカイティアラ
平成24年10月7日入厩

井 呷 貴 之

フラッグと共に

フラッグのチーフになったのは8月からでした。ここ2年間ノーザンでLBまでしか結果を残せていないという状態でした。

フラッグのチーフとなってすぐ酪農学園大学馬術部OBの宮竹先生のクリニックに参加しました。二日間にわたってノーザンホースパークのアリーナでFWからコンビネーション、ミニコース走行まで行いました。結果として一日目は障害に向けただけで走り出してしまい、飛越後コントロールできなくなり、人がどんどん引っ張ってしまうという感じでした。人が飛越時にバランスを崩して拍車を刺してしまったことが原因だと思い、二日目は拍車を付けずに参加しました。二日目は障害に向けると走り出すということは次第と無くなりましたが逆にしっかり動かすということができませんでした。宮竹先生には馬が障害を怖がっている、今まで勢いで障害を飛んできたから今後は低い障害をゆっくり飛越させることが必要。しかしもし障害を拒止、逃避した際、鞭や拍車で懲戒するとパニックになってさらに悪くなるから馬によく考えさせることが必要、FWも同様で、馬を落ち着かせて、緊張させずにゆったりとした運動ができるようにすることが必要だと指摘していただきました。また自分の姿勢についても多々指摘され実りあるクリニックになったと思います。この場をお借りして宮竹先生をはじめこのクリニックを企画していただいた北日幹事の方々に感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

北大に帰ってからはOBの中津兄にまずはひき馬から指導していただきました。当初フラッグはひき馬の際、人に全く意識をしていなく、人が止まっても止まらない、

人が速く歩いてもペースを変えないといった感じでひき馬に全然集中していませんでした。またひき手を使って懲戒しても反省するそぶりが無い、怒られていると思っていないといった感じでした。当初のフラッグは人が乗って障害を向かえばパニックになりかねない、一方人が降りると全く人に集中しないという状態で正直どうしたらいいかわかりませんでした。

FWはまず中津兄にお願いしました。頭を下げてゆったりとした運動、詰めた運動をつづけました。運動時間を極力短くすること、運動後はすぐに馬房に入れて人からのプレッシャーから解放してあげ、砂糖をあげることを心がけました。また自分は調馬索でまずは声による扶助で移行ができること、つまり人に集中させることをしました。具体的には2.3周で移行を入れ、スムーズにできたらよくほめてあげるといった感じです。また体が硬いので索でも常歩を15分以上するようにしました。シャンボンをつけての調教もしました。しかしなかなか内包姿勢がとれなかったり、踏み込みが浅かったりと体の硬さが目立ちました。左手前では前に出そうとするとすぐに駈歩に逃げたり、内に入ってきたりしました。

9月末、索を回している間に歩様が悪くなりました。数日続いたため馬休にし、装蹄師さんに診て頂きましたが、特に異常は見つからなかったです。おそらく索を含め回転運動を急にやりすぎたためだと思います。それからは索を少なめにしてFW中心の運動をしました。焦らせないように詰めた運動をしました。障害は、特にコンビネーションは問題なく飛越し、人のバランス、随伴練習に適していました。FWで声によってある程度移行、コントロールできるようにしたのち、横木を各歩様でまたいでもペースを変えられないように練習しました。しかし伸ばした歩度でライン練習をやった場合などコントロールできなくなることもありました。

10月下旬に北大ホースショーに80cmでエントリーしました。結果は満点で帰ってこることができましたが後半になると障害を飛越した後にコントロールできなくなることがありました。原因は飛越後に自分がバランスを崩しバランスバックするのが遅れたためだと分析しました。数日前に中津兄に100cmのミニコースを回っていただいているので馬はまだまだ飛ぶことができます。

ホースショーの結果より冬にかけては、自分のバランスと声だけで詰め伸ばし、移行ができるように続けて運動しました。またブルーシートや丸太の馴致もしました。最初は常歩から勝手に速歩にされましたが次第に落ち着いてまたぐことができるようになりました。

フラッグに乗る際注意していることは、馬が気持ちよく運動できるようにすることです。求めることもほかの馬に比べて少なめにして、よく愛撫してあげることが大切だと思います。また人からのプレッシャーが大嫌いなので運動時間は短めにして、肢に熱がないか、怪我はないかを確認したらすぐに馬房に戻し、しばらく放置すること

が有効だと思います。自分は鞭も拍車も使わずに運動しています。FWに関していえば、常歩を動かしかつゆったり歩かせることは自分には容易ではありませんでした。運動前の常歩は動かしぶらく、それ以外の常歩は焦らせてしまうことが多々ありました。それは知らないうちに人が騎座や脚で馬にプレッシャーをかけていたためと考えられます。また動かしていくと勝手に上方移行されやすいです。その場合も引っ張って止めようとするのではなく声をかけながらバランスで止めるよう意識しました。特にフラッグの場合は音声扶助によって自由に運動できることが必要になると思います。引っ張って止めると馬がパニックになりやすいからです。障害に関しては過去の先輩方の経路回りのビデオを見るのが参考になると思います。特にHDDにある中兄の野外騎乗のビデオは参考にさせていただきました。なぜ馬が障害前で止まってしまったか、止まった後の処理はどうすればいいのかがよくわかります。フラッグの場合経路回りの際、2ポイントで回ると障害をよけやすいことがわかりました。練習では2ポイントで気持ちよく走らせることは大事ですが、軽いシートで乗る練習も必要だと思います。

フラッグとの今後について

これを記しているのは2016年の年末です。フラッグは来年15歳になります。15歳という現状、また過去に北日、全日に出場した際も正直120cm、130cmという高さはフラッグには高く落下が多かったこと、しかもここ数年全く結果を出せていないこと、同時に今の北大では新馬が多く育ち来年、再来年の北日、全日を望めることによりフラッグが競技馬にこだわり続ける必要はないという部活の意見に至りました。よって北日に「チャレンジ」するのは来年で最後になります（来年北日に行ければ来年からも北日、全日を目指します）。つまり来年はフラッグの今後を大きく決める年になります。もし北日を目指さず下級生の試合経験のための馬になるとしても110cmほどの経路はノーザンで回れるようにしなければいけません。よって来年のフラッグの年間スケジュールは以下のような予定です。

- 5月 半澤杯 90cm、100cm完走
新緑馬術大会 LA完走 野外馴致*1
- 6月 春季馬術大会 MD完走*2

*1 この野外馴致の結果次第で北日総合に出場するか否かを決定する。
→もし総合に出場する場合は毎大会野外馴致に参加し、経路の高さを上げていくのと同時に野外障害の馴致を北大でも行う。また馬場の大会にも出場する。

*2 春季馬術大会の結果次第で北日二走に出場するか否かを決定する。

→もし二走に出場する場合は国民体育大会予選までにMC、MBに出場する。経路の高さを上げることに専念する。

半澤杯までの間は以下のことを目標にします。

- ・北大で100cmの経路を回れる技術を人が身につける（馬は回った経験があるため）。
- ・丸太障害やタイヤ障害など北大でできる野外障害の馴致を行う。
- ・以上のことが行えるようFWを丁寧に行う。

今の自分の技術と馬の状態を鑑みてこの目標を達成することはとても困難なことは自分が一番承知しています。ですがやはり自分はフラッグにまだまだ北日、全日に出場してほしいので自分の持てる力をできるだけフラッグに捧げる努力をしたいと思います。

フラッグの馬体、性格について

フラッグは蹄が丈夫ではありません。今年も何回も蹄又腐爛になっていました。またたてがみなどにほこり、フケがたまりやすいので手入れは十分丁寧にしてください。しかしあまり人に体を触られるのは好きではなく、機嫌が悪いときは噛んでくるときもあります。丁寧にかつすばやくやることを心がけてほしいです。

また馬体は固く背中や腰を凝りやすいのでマッサージやストレッチも念入りに行ってください。前肢を持ち上げて伸ばすストレッチや尻尾を持ち上げて回すストレッチは有効だと思います。

性格は臆病であることは否定できません。特に音に敏感です。もしびっくりしてパニックになったらやさしく撫でてあげてください。前記しましたが今のフラッグはあまり人に好意を持っているとはいえません。運動中はあまり多くを求めすぎないこと、よく愛撫してあげること、運動時間はあまり長くせず、終わったらすぐに馬房に戻しハミを外したら砂糖をあげることをしてあげてください。大事なことは丁寧に接することだと思います。馬に信用してもらうことは競技に出場し、良い結果を出すうえで一番といっていいほど重要なことだと思います。

最後になりましたが夏から今まで指導していただいた中津兄やアドバイスをいただいた小山兄には本当に感謝しています。ありがとうございました。もっと大変になるとは思いますがこれからもよろしくお願ひします。

◆北驢号◆



セン サラ 芦毛
平成20年3月10日生
米国/R & R King Stable
父 Unbridled' s Song
母 King Shooting Star
平成24年9月15日入厩

高橋春南

昨年11月に北驢（ティガー）の担当を引き継ぎ、今年目標を

- ① 怪我をしないで調教を進めること
- ② 100cmのコースをまわること

にしました。

シーズンを終えてみると、①、②のどちらも達成することができました。ティガーと一緒に私も成長できた一年だったので、ティガーの調教報告というより、乗り手の意識を変えることでよくなったこともたくさんあり、まとまりがなくなってしまうですが具体的にいった練習方法や私の感じたことも含めて書いていきたいと思います。

〈フラットワークについて〉

引き継いですぐ、最初の問題は、脚への反応が悪く、前に出ないことでした。動かそうと思えば思うほど、人が邪魔をして馬が嫌になってしまうため、運動は30分以内で短時間に動かすことを目標としました。焦らず、いいリズムで運動することを心がけました。雪が積もってからは輪乗り運動を中心にし、輪乗りで移行がスムーズにできるよう練習しました。雪が解けてから、馬体の歪みがひどくなくなっていました。中津兄に定期的に乗っていただき、内包姿勢をきちんと取る練習をしました。加えて、落ちていて常歩することができない状態だったため、折り返しをつけて丸馬場で運動したり、10本以上のキャバレッティーを作ってひたすら常歩で通過させたりしました。

大きな変化があったのは、4月6～8日の3日間、札幌競馬場のクリニックに参加し、布施勝さんに見ていただいてからでした。このとき、

- ① ハミ受けが安定しない

② 真直性がない

③ 人が譲るべきところで譲れていない、の3点を指摘されました。

まず、①について。馬がハミを怖くなってしまい、手綱を持つだけで背を張って緊張してしまうようになっていました。そのため、手綱はできれば長いところから運動をはじめ、ハミを受け入れてから少しずつ短くするようにしました。そして、馬が少しでもハミを譲ったら、人は直ちに拳を緩めて譲ってやるようにします。ハミを受け入れるようになって来たら、歩度を伸ばし、次に歩度を詰めていきます。この時に、ハミを嫌がって外さないギリギリのところをキープできるように気を付けます。最初から求めすぎないで、少しずつ許容範囲を広げるようにします。ダメなところを探し強制して直すのではなく、いいところで楽にして褒めてやるようにしました。ハミ受け以外でも、ティガーの調教のすべてにおいて、この考え方に沿って行うようにしました。②については、馬体が歪んでいて、推進力が分散してしまっていました。例えるなら、至る所に穴が開いている歯磨き粉のチューブ。歯磨き粉を出そうとしても、まわりの穴から歯磨き粉は漏れてしまいます。歯磨き粉（＝推進力）を前に出すために穴を塞ぐ（＝歪みを脚、バランスで矯正しながら運動する。）ことが必要です。そのために、馬体を真っすぐにする練習として、馬場を四角く使い、辺を真っすぐ、隅角は直角を描き、はみださないで輪乗りを描くようにしました。これができるようになって、初めて横運動を始めることができます。③は人の問題で、馬がハミを受け入れたサインを見逃していた→ハミを受け入れたのに楽してもらえない→イライラがたまって暴れる→手綱で引っ張られる→ハミが怖くなる、の悪循環になっていました。

①～③を克服するための練習として、マルタンガールを鼻皮に通した状態（図参照）で3.0m間隔の横木を速歩通過する練習を行いました。マルタンの影響で、頭は高くすることができないようになります。折り返しと違い、上方向だけでなく左右への制限もかかるぶん、力が分散する“穴”が減って余裕が出て、対処しやすくなります。3.0m間隔というのは、間を速歩で2歩と3歩を選択できます。最初は2歩で楽に動かし（跨いで譲ったら拳を緩める）、次に詰めて3歩で通過できるようにしました。馬が譲っていない状態で手綱を持って横木を跨ぐと、跨いだ瞬間に拳にぶつかって、かくっと頭を下げて馬が譲るようになります。この瞬間を見逃さず、楽に乗って行ってやると、馬がハミを譲れば楽になると理解して譲るようになります。少しずつ、これを蹄跡でも続けられるようにしていきます。

乗って楽なところを作れないので、シャンボンをつけて調馬索を週1回行いました。調馬索をする日は騎乗せず、調馬索だけでリラックスして終われるようにしました。

キャバレッティーを使ってハミ受けの練習をする日は、馬場で馬装を解いて放牧をしました。これは最高の愛撫になるので、強い運動をした後に行うとよかったです。

〈障害、野外馴致について〉

障害に向かうと焦って走ってしまうことが問題でした。これについては、5月に平芳兄に見ていただいたのと、国体予選の前に酪農学園大学OBの梁川さんに見ていただきました。梁川さんに見ていただけたのは、国体予選の時の輸送の都合から、3日間、早来エクワインファームに滞在する期間があったためです。

最初は持っていていいので、同じペース、同じ頭の高さで障害を飛べるようにする②楽にしても、それをキープできるようにする③さらに動かす、という順に進めました。ティガーは障害に向かって走りこんでしまうことが問題でしたが、「走りこまないようにする」のではなく、「ストライドを小さくする」と考えるとイメージしやすくなりました。どちらも同じ意味だと思うのですが、自分の中のイメージを変えるだけで馬の動きも変わったので、イメージすることの大切さがわかりました。走りこんでしまううちは、頸を振っても気にせず、拳をじっとして我慢させるようにしました。①ができるようになったら、それを、拳を楽にしてもできるようにしました。走りこんでしまうときには後躯は開いてしまっており、同じペースで向かえるようになったということは、後躯が入ってきたということです。拳を楽にしてもそれができるようになったら、もう一段階ギアを上げて向かうことができる状態になったということです。難しいと思ったのは、同じペースを保つためには嫌がっていても最初は拳を使う必要があるということです。拳を使うというのは、引っ張るということではなく、じっとその場に置くということです。その加減や、どういう状態がいいのかは、実際に教えてもらうことで分かることでした。

試合では下級生を低いクラスに出して場数を増やして行きました。試合の雰囲気には慣れてきました。頸を振る癖はあまり気にしないようにしたのですが、徐々に収まってきています。（勝さんには、ハミなしのハックモアをしたらどうかと言われましたが、今のところ試合に支障は出ていないのと、だんだんハミに対する抵抗もなくなってきているので使ったことはありません。）

今年は、一度も障害で止まることはありませんでした。今年から本格的に始めた野外馴致でも、いつも前向きで物怖じすることなく向かいます。これは、去年までの調教で障害は怖くないということを理解していたからだと思います。今年は、競技経験のあるリードホースがいない中で新馬たちの馴致を行いました。ティガーが中心となってリードホースの役割を担っています。ノーザンにあるだいたいの固定障害な下級生を乗せてもできるようになりました。南相馬馬事公苑のだいたいの障害も帶著との馴致の時に飛ぶことができました。ただ、大会になると、普段の試合とはまた違った雰囲気になって緊張してしまうことが考えられます。ティガーには飛ぶ能力があることはわかっているので、馬と一緒に人が焦ってしまわないように、十分に準備しておくことが必要だと思います。

〈最後に〉

今年は幸運にも、ティガーに乗って指導を受ける機会が多くありました。レベルの高い指導を受けることができたことは、ティガーの一年ではとても大きな出来事だったと思います。北大での練習の質を上げるためにも、札幌競馬場、早来エクワインファームなど、先輩方が築いてくれた外部とのつながりを大切にして、後輩たちにもつなげてきたいと思います。外部で教えてもらったことを北大での指導でも生かしていきたいと思います。

そして、今年順調に高さを上げることができたのは、去年まで基本的なことをきちんと行っていたからだと強く感じました。去年までは競技経験豊富な馬たちに乗せてもらっていたので、障害のクラスを上げることや、新しいことができるようになることは新鮮でとても嬉しかったです。しかし、それは、怪我で調教が進まなかった時にも、先輩方がティガーのためにその時にできることをちゃんとやってくれていたからなのだと思います。

ティガーは北大のエースになると思います。まずは来年、北日で総合に出て完走することを目標に調教を進めていく予定です。今後ともご指導のほどよろしくお願いします。

◆北秀号◆



セン サラ 鹿毛
平成17年3月22日生
北海道日高郡新ひだか町新和牧場産
父 サクラローレル
母 サクラジュリエット
平成26年3月11日入厩

大 木 八 恵

私がお中さんからロミオのチーフを引き継いだのは去年の5月の中旬でした。その頃のロミオは、半澤杯の頃から始まった跛行がまだ完全には治っておらず、運動のほとんどが常歩で、当面の目標は休んでいた間に落ちた筋肉を回復させるということでした。少しずつ運動量を増やしていき、5月の終わり頃には中津さんに見ていただきながら本格的に運動を再開しました。

運動前にはシャンボンをつけて調馬索を回し、左右を均等にほぐしてから乗って運動しました。運動の始めは馬場を大きく使い、まずは馬体をまっすぐにすることを意識して乗りました。脚反応が悪く、運動始めはなかなか前に出ませんでした。動かないからといってゴリゴリと強い脚を使うのではなく、移行を多く入れることで馬の前進氣勢を高め、動いてきたところで楽に乗るという風にしました。速歩駈歩も基本軽いコンタクトで乗り、馬のバランスが前のめってきたときだけ少し起こして、また手を軽くするということを繰り返して、馬が自分でバランスを維持できるようにしました。6月に入ってから低クロスから障害を始めました。障害の時には最初に中津さんに下乗りをしていただいて、その後に私が乗りました。ロミオはまだ障害に慣れておらず、障害前に減速する、障害後に左右によれるという癖がありました。しばらくは踏切をつけて速歩飛越だけを行い、飛んだらすぐに燕麦をあげて障害に慣らしていきました。7月頃からは部班にも参加していきました。部班の中である程度の運動はできましたが、歩度の詰め伸ばしや図形運動などは苦手で、同じような運動が続くとどんどん前進氣勢がなくなり脚もきかなくなるため、1年生が乗ると部班についていけないことが多々ありました。部班に関しては、号令を移行多めにしたり、曳き馬

や調馬索で声や舌鼓などの音声扶助にしっかり反応するように調教していたため、下から少し助けてあげられたのであまり問題ではありませんでしたが、障害はなかなか慣れず、いいリズムで飛ぶことができませんでした。ロミオは元々キャバレッティーでさえも苦手で、一步一步慎重に跨ぐという感じだったため、普段のフラットワークから横木を積極的に跨がせたりして、地道にやっていくしかありませんでした。障害は大分ゆっくりではありましたが、少しずつ高さをあげて、シーズン終わりには、単発やコンビネーションであれば90cm程度は飛べるようになりました。先シーズンは、結局試合として障害の経路を回ったのは北大ホースショーだけでしたが、私が乗って60cmをかえってくることができました。馬場では1度ノーザンでA2に出て57%程度でした。少しずつですがフラットワークも良くなっていると思います。

来シーズンも引き続き私がチーフを担当する予定です。来シーズンのロミオの目標は、障害はLAをかえってくることに、馬場はA2以外の課目でも55%以上を取ることです。正直言って、先シーズン、ロミオのために2年目の私にできたことは馬体の維持ぐらいでした。逆に、私はロミオのおかげで索の回し方を学んだり、バランスや正反撞の練習をすることができ、多くの面で成長できたと思っています。まだまだ人の技術は足りませんが、私をもっとうまくなって、来シーズンはロミオのためにできることを頑張っていきます。

◆北鷹号（シュガーシャック）◆



セン サラ 栗毛
平成21年2月24日生
北海道勇払郡安平町産
父 アドマイヤドン
母 メイプルシロップ
平成26年6月14日入厩

羽二生 香 成

私が4月から1年を通して北鷹を担当させていただきました。6月までは中津兄に見ていただきながら、7月くらいからは私が主体となって調教を進めてきました。

昨シーズン、シュガーは小山兄が乗っておられ、80cmのコースは回ってこられるレベルではありましたが、4月から再スタートということで、今シーズンはクロスから始めました。シーズン序盤は、試合前になると毎度、挫躓などで歩様が悪くなり、ほぼ毎試合出られず、80cmでストップしたまま、野外馴致も全く行えませんでした。シーズン終わりになってようやく、まともに試合に出られるようになり、9月から90cm、100cmとクラスをあげることができ、最後のほくだいホースショーでは、100cm減点0ジャンプオフ減点0で走行を終えることができました。経路走行に関しては、90cmくらいまでならば、終始落ち着いて、頭の位置低く、リラックスした状態で回ることができます。100cmにあがると、前進氣勢が大きくなり、頭頸の位置は高くなりますが、それでもよい状態で回ってくることができます。夏くらいまでは、障害の飛び方がまだわかっていないようでしたが、終盤になってくると、前脚をたたんで、しっかり飛越できるようになりました。野外馴致も1度行い、バンケットからの簡単な固定障害、丸太、幅のせまい障害、など一通りこなしました。馬場に関しては、歩様が悪く障害に出られないとなった時に1度だけ出ましたが、北大の馬場での準備なく、試合に出ることとなってしまったので、馬にとってあまり意味のないものでした。

ここからは、私が意識してやってきたことを書いていきます。当たり前のことばかりですが、当たり前なシンプルなことしかやっていないので、それを書かせていただきます。

まずは人と馬との信頼関係の構築。曳馬から始めて、調馬索をしっかりとできるようにしました。その際はシャンボンをつけて頭の位置を低く。調教を進める中で、全く調馬索なしにすると、乗った時に口向きが悪くなったり、緊張する場面が多くなっ

たりと、上手くいかないことが多かったため、だいたい週に1度は調馬索を入れるようにしていました。普段のFWでは、頭の位置は低く。きちんとまっすぐしっかりとハミに出てくるようにということと、常に後ろからのパワーを前で受けとめることを意識しました。運動はじめは、常歩でハミにしっかり出して、柔軟を行う。常歩の運動の中である程度の歪みは直す。常歩を十分にしっかり行ったあとで、ゆったりした速歩を始める。速歩での歩度の詰め伸ばしや速歩→常歩、常歩→速歩の移行が落ち着いてできるように。それができてから、駈歩発進。そうしていくうちに、駈歩発進もスムーズにできるようになりました。障害に関しても、基本練習の時は、ゆったり落ち着いた駈歩で、頭低いところでアプローチすることを心がけました。経路走行中も馬のリズムを崩さない程度に、できるだけ頭の位置を低く。高さに関しては、単発ならば120cmまでは余裕で飛越できます。ただ、高いままでオクサーにすると、時々ひるむことがあり、一度それを許してしまうと、馬の気持ちが戻ってくるまでに時間がかかります。フレッシュな状態であれば、楽しそうに飛んでくれるので、その状態を維持しながらトレーニングを進めることが大切だと思います。いかに人間に集中して、楽しく運動できるか、常時フレッシュな状態でいられるか、をよく考えることが必要です。馬の気持ちを考えて乗らなければいけないのだと改めて感じさせてくれる馬です。コンビネーションはまだ余裕を持って飛ぶことができないので、来シーズンの練習に取り入れていこうと思います。シーズンはじめは、なかなかハミに出てきませんでしたが、シーズンおわりには、しっかり出てくるようになり、調子のよい日なら、弾発のある速歩・駈歩、収縮駈歩、伸長速歩もできるようになりました。シーズン終了後は、ツースターの運動を目標にやってきました。適度な緊張感を持ち、ピリピリした中で、きつい運動を短時間で行うことを意識しました。ただ、まだ求め続けすぎると、パニックになってしまうので、経路を踏むとなると、いい速歩、駈歩の継続は難しいだろうと思います。また、一見バランスが起きているようでも、まだ緊張してくる場面が多いので、しっかり低いところで運動できるようにし、そこから後躯を踏み込ませてバランスが起きてくるようにしていきたいです。その部分は来シーズンの課題とします。

シーズンを通して、平芳兄や中津兄、また、私が長い間お世話になっているJRAの指導者の方々など、多くの方々にアドバイスを頂きました。そのお陰で、ここまで調教を進めることができました。調教できるだけの十分な知識も技術もない未熟な私とシュガーが今の段階まで来られたのは、そのの方々のお陰だったと、シーズンを振り返ってみると、改めて思います。本当に感謝しています。

来シーズンも今シーズン同様、私が担当させていただきます。北日出場を目指して、まずは障害になれること（高さ、派手な障害、試合会場の雰囲気など）、落ち着いて運動できるようになること、野外馴致を進めることを目標としてやっていこうと思います。私自身も、たくさん勉強して、シュガーと一緒に成長していけたらと思っていますので、これからもご指導、応援の方よろしくお願いします。

◆北咲号（チェルシー）◆



牝 日本スポーツホース 栗毛
平成16年5月20日生
北海道標津郡中標津町産
父 マディクシー
母 快華
平成26年10月7日入厩

佐 治 ひ な 子

チェルシーは2年前にメインフィールドから入厩し、その後中津兄が1年間調教し、昨年の道大会で右前肢の球節を骨折した。その後9月の代替わりから私が一年間担当した。

馬体管理の面では、安静期間中にもハイキューブとふすまの飼を朝夕2回ずつあげていたため、もともと太めだった体型が余計に大きくなってしまい、妊娠馬のようになってしまった。肢が悪いのに体重が増えて余計に負担を重くしてしまった。その後、飼をなくし、乾草のみ与えるようにしてからは少しずつ元の体型に戻った。チェルシーの場合は体型管理が難しいので、運動を休み始めたときから肥満に気を付けるべきだった。

また、トラウマがあるのか、耳の後ろを触られるのが苦手で、無口や頭絡を付けるのを嫌がる節がある。この点については、チェルシーのチーフになる前から中津兄からも聞いていたため、特に注意するようにしていた。骨折で休ませていた時期にも何度か頭絡をつけて引き馬をしたこともあった。丁寧かつ素早い馬装を心掛けた結果、かなり改善し、上級生が見ていれば下級生でも装着できるようになった。騎乗前に馬との関係を良い状態に保って運動できるようになったことは良い傾向だろう。

代替わりから最初の1ヶ月は、安静にするため、乗らずに毎日15分ほどの引き馬のみを行っていた。チェルシーはよく調教されており、引き馬で人の動きに合わせるのが上手く、勉強になった。人が止まったら止まり、人が歩き出したら歩き、走れば速歩をする。

骨折した球節を曲げたときの痛がり方を、怪我の指標としていた。10月半ばごろに川崎さんに肢の状態を見ていただき、良くなっているということで調馬索での運動を

始めた。歩様を見て、大きな跛行がなければ10分ほど常歩、速歩を行った。調馬索の運動を始めてから、明らかに歩様がおかしくなったとか、肢の痛みが酷くなったということはなく、まもなく騎乗して運動ができるようになった。fwを始めてからは、落ち着いた速歩を行い、焦って前のめりにさせないことを意識し、冬の間の目標としては、コンスタントに騎乗しての運動を続けることを目指した。週に何度かは歩様が悪く、運動できない日があったが、春までには30分ほど速歩までの運動が続けられるようになった。

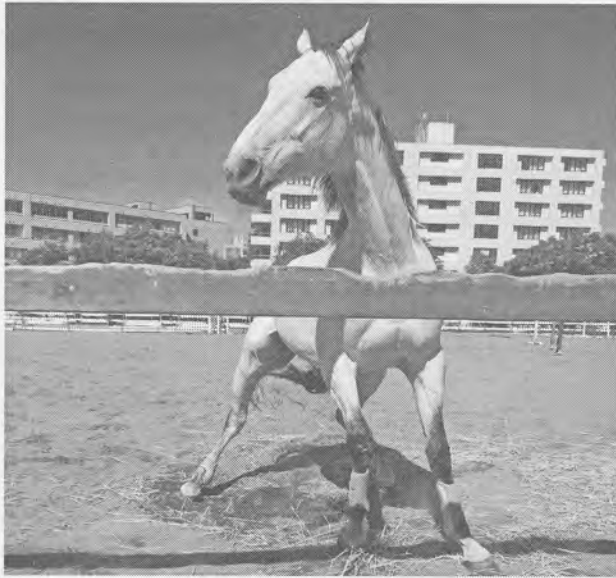
4月ごろからfwで駈歩を始めた。シーズン中の目標としては、①駈歩までのfwを毎日行うこと、②障害を始めることを掲げた。

6月ごろに歩様が悪くなり乗れない時期があったが、装蹄師の国藤さんと何度か相談をして、チェルシーに合った装蹄をしていただくようになってからは球節への負担が軽くなったのか歩様が安定し、結果としては、5月の半澤杯では私が騎乗して、A2課目54%、秋の北大ホースショーでは下級生が乗ってクロス経路を回ることができた。

チェルシーは調教が進んだ馬なので、馬体が柔らかく、近藤さんを始め指導部の方々に見ていただき、横運動（斜横歩、肩内、腰内など）を行なうことができ、人が馬から多くのことを教えてもらった。横運動を入れたfwを行うことにより、馬体の柔らかさを保つこともでき、下級生の良い練習にもなるだろう。

今後も、肢と相談しつつ障害を跳んだり横運動を行ったりとレベルを上げていってくれることを期待している。

◆北響号（カノンコード）◆



セン サラ 葦毛

平成18年2月25日生

北海道勇払郡早来町ノーザンファーム産

父 クロフネ

母 ポップス

平成27年4月7日入厩

杉 田 優

代替わりから平成26年度卒OBの小山さん、7月からは平成24年度卒OBの江口さんと共に調教してきました。共にといっても私にできたことは馬を障害にならすことくらいで、私自身の練習が主だったかと思われまます。

今シーズンで初めに設定していた目標はノーザンで100cmを周ってくることでした。結果的には北日（福島）と10月の市民大会で90cmを走行し帰ってくる事が出来ました。以下、今年出場した試合をまずまとめておきます。

- | | |
|--------|--------------------------|
| 半 澤 | 江口さん80cm、杉田60cm・A2 |
| 新 緑 | 江口さん80cm、杉田60cm、小山さん野外馴致 |
| 春自馬 | 未出場 |
| 国体予選 | 江口さん90cm、杉田80cm・A2 |
| 道大会 | 高橋80cm、杉田80cm |
| 北日（福島） | 杉田90cm、上野A2、杉田野外馴致 |
| 秋自馬 | 杉田90cm、80cm、矢渡80cm |
| 市民大会 | 杉田90cm、矢渡70cm、杉田野外馴致 |
| ホースショー | 未出場 |

春先には、冬の間落ちてしまった筋力を回復するためにキャバレティや単発障害、低い簡単なコンビネーションを行ったほか、新入生を乗せられるようにするため調馬索運動も取り入れました。あまり体力、筋力がなく少しきつめな運動をすると頻りに歩様が悪くなりました。また、馬休明けは体が固まっていることが多く策を回してから乗るようにしていました。

キャバレティ、コンビネーションは馬の練習として小山さんに行って頂きました。障害は週2まで、練習時間は1時間ほどが目安でした。

半澤、新緑では落ち着いた運動をする事ができず、練習障害での逃避が目立ちました。

新緑では久しぶりのノーザンでの試合だったので、まだ場所に慣れていないせいもあったかと思えます。しかし、それに加えて馬が傾いたまま運動しており、障害に対して人と馬の信頼関係ができていなかったことも挙げられます。

夏は江口さんとともに障害練習を基本に練習していきました。

馬が障害を跳ぶことになれ、自信をつける、正しい跳び方を体得することを目標にしました。そのために、間3mのバウンスや3.4mの駈歩のキャバレティの最後を障害にして馬が起きた状態で障害に入る練習、10.4mの距離で4つ障害を置いたもので馬を大きく動かすためのコンビネーションなど様々な種類の練習を取り入れました。経路周りの練習として8の字のラインなどもよくやりました。

この頃から、北大にある野外障害なども取り入れていくようになりました。野外については最後にまとめてあります。

北日では現役しか乗れないため、道大会からは経路を私一人で周ることを目標としました。江口さんに乗っていただき当初のシーズンの目標である100cmを先に周ることもできましたが、江口さんや同期と話した結果高さは上げられないが自分が北日で乗れることを第一の目標としました。

道大会ではフレンドリー80cmでダブルを避けられ、最後まで自分の力では跳ばせる事ができなかったため高橋にもう一度エントリーをしてもらい経路の半分を周ってもらいました。そして土、日に80cmに自分がエントリーをしました。土曜日は落馬による失権、日曜日にやっと完走する事ができました。

北日ではフレンドリー80cmではダブルで逃避が見られましたが最終的には跳んで帰ってくる事ができました。最終日の90cmでは満点で走行を終えることができました。

秋も江口さんとともに障害練習を基本に練習していきました。

この頃になると馬は障害に対し自ら飛んでくれるようになり高さをあげる事、馬の中にばねを作ることを目標とした障害を取り入れていきました。例えば、リードバー2.8mクロス5.4mクロスオクサー6mオクサー9mオクサーのコンビネーションなどです。

北日後、馬は疲れていましたがシーズンが終わる前に100cmを周っておきたいという事で秋自馬、市民大会、ホースショーにも出場する予定で調教を進めました。しかし、ホースショーの出場は結果としてあきらめました。市民大会での野外馴致で左後ろの繋ぎを怪我してしまい、今の時期に無理をすることもないという理由からです。100cmの経路周りを今シーズンはできませんでしたが、実力的にはできたと思っています。

ます。

寒くなってきてからは障害の高さは上げずにジムナスティック（いろんな距離や歩数のコンビネーションの間に横木を置き、馬の動きを確立するもの）を行いました。しっかり横木を見て転ばないように体を動かしてくれ、最初は届かないこともありましたが、何度かやっているうちにだんだんスムーズに行えるようになっていきました。

冬に入ってからは体が硬くなりがちですが、斜め横歩、肩内、腰内などの横運動を取り入れ、馬の単脚への反応をよくしていくことで、馬が体を使えるようにし、春に入ったときに2スターを満足以回れることを目標としています。馬の性格なのか、雪が深いところにもしっかり進んでくれる素直な子なのでそこを損なわないようによく褒めていきます。

今シーズンでは馬が障害を跳ぶものだと理解し慣れることはできましたが横運動などの馬場的な運動はあまりできませんでした。江口さんに乗っていただいたときは馬を低くし運動していただきましたが、障害をやる時や私が乗る時は頭が高い状態のまま運動を続けていました。

これからの調教の方針としては、引き続き障害の馴致と高さ、ボリュームを上げていくこと、そして馬を丸めていくことです。具体的には今の問題点は左右に体が傾きやすく、倒れたまま運動してしまう事と動きが硬く小さくなってしまうことです。なので、まず馬をまっすぐ前に走らせることに焦点を当てて運動します。そこでハミを受け、リラックスした状態で大きく動かせるようにしていきます。人の扶助への馬の反応もスムーズになり馬にも楽なところで運動ができるはずです。そこから馬がいつでもハミに向かっていくことを確認しながら起きた状態にすることで最終的には後肢が入ったいい動きを作っていくはずです。

最後に野外馴致に関して簡単にまとめます。

シーズン初期は小山さんに乗っていただき、途中から私が乗って行うようになりました。北大にある障害も一通り跳びました。跳び降りる事と穴が苦手なようです。また障害に対して自信がなく目を見開きながら跳んでいるところがまだ見られます。しかし、勇気はとともあり、リードホースの後ろならほぼ100%跳んでくれます。乗っている人が注意することは、しっかり馬の体を最後まで起こしながら前にだし、人も後ろで待っていることです。

この調教報告については江口さんに助言をいただいて書かせていただきました。

来シーズンは北日総合権利獲得、全日総合完走を目標としてカノンと頑張っていきます。

◆北汐号（タイダルベイスン）◆



セン サラ 栗毛
平成22年3月6日生
北海道日高郡新ひだか町タイハイ牧場産
父 アグネスタキオン
母 ワシントンシティ
平成27年7月9日

本丸尚人

北汐号の馬責を2年の11月ごろから担当させていただいています。現在は平成25年卒の江口さんに中心的に乗ってもらいながら、2年目の上野に引き継いでもらっている状況です。

最初に今シーズン出場した大会について簡単にまとめておきます。

- 7月 国体予選 LC：江口さん、減点20 LC：江口さん、減点7
8月 道大会 LC：江口さん、減点1 LC：江口さん、減点0
9月 秋季大会 LC：江口さん、減点4 LC：高橋、減点4
10月 北大ホースショー 60cm：上野、減点8 LB：江口さん、減点0

今シーズンの目標として1つめに低いクラス（LC程度）を安定して走行し、最終的に来シーズンにつなげるためにLBを完走するというものがあり、2つめに現役の騎乗というものがありました。

半澤杯の前に右前肢の管の内側を怪我してしまったために半澤杯、新緑等のシーズン初めの大会に出場することはできませんでした。怪我の原因はパドック内で他の馬に驚いてしまったことであり、前から馬沿いが悪い部分がありましたが、より馬に馴らす必要性を感じました。これについては後で述べさせていただきます。

大会結果を見ていただいてもわかるように1つめの目標はシーズン初めの躓きを取り消すように順調に達成していくことができました。シーズンの終わりのほうには、ノーザンの大会で現役が完走し、現役の担当者が北大の馬場ではありますが完走するという2つめの目標も果たすことができました。加えて、担当者である江口さん、上野の他にも現役部員でも乗れるように、シーズン終わりからは調馬索での現役部員の騎乗も行いました。年末からは担当者以外の現役部員の騎乗も開始しました。現在では、部班に加わってもほとんど問題ないレベルになっています。ただ、騎乗の際にも、調馬索の際も、下方移行が利きづらいというのが当面の課題かと思います。これにつ

いては、曳馬から始められることなので声での扶助をより徹底できればと思います。

馬体としてはシーズン初めには前肢が強く前のめりになる印象が強かったですが、輪乗りやキャバレティ等でバランスを起こした状態での運動を地道に継続することで、徐々に馬自身が良いバランスで運動出来るようになってきています。現役が騎乗したときの印象としては、騎乗するだけなら可能だが、まだまだ新馬らしいところが残っているといった感じです。具体的には、前が強い、下方移行が利きにくい、脚反応は悪くはないが集中するまで動いてこない、動いていないときは首を折るようにしてハミにのってこないというような問題がありました。

障害に関しては、垂直であれば80cmまでの高さなら問題なく高さを上げていくことができましたが、オクサーや詰め物の入った障害など複雑になるとひるんでしまう節がありました。ただ、従順で真面目な一面も持っているため、詰め物等にひるんだとしても脚で押せば飛越し、数回繰り返せば問題なく飛越できるようになりました。毎日継続的に障害練習を行うことでひるむこともなく、苦手意識を改善できたかと思えます。FWでもいえることですが、障害練習だと馬自身に余裕がなく、ライン等の経路周りに近い練習や詰め物の入った障害練習だと前のめりになったり、バタついてしまったりすることがあるので、今後も継続的に障害練習を行い、障害に対して馴れさせ、安定して飛越できるようにする必要があります。また、跳びもまだ前方向で低くなってしまっているのでバウンスを行い、馬自身が飛び方を覚えていくようにしないとけません。

馬に馴らすという目的のため、雪が降ってからは多頭放牧も行いました。もともとの馬の性格が馬らしく、繊細であり、今まで見たことがないもの、あまり見たことがないものには驚くような印象でした。そのため、初期のほうは馬が合わず、他の馬が常歩で横を通過するだけでも驚いて暴れてしまうという状況で、馬が少ないところで運動するしかなく、興奮した後はその後の運動にも影響が出てしまうことが見受けられました。多頭放牧は、この他の馬にビビってしまう状況を打開するために行うようにしました。はじめは、1頭での放牧から行い、次にスペヤフラッグなど放牧中自分から他の馬にちょっかいをかけに行かないような馬2、3頭とともに短時間放牧しました。雪が積もってからは10頭近くでの放牧も行うようになりましたが、特別暴れることは少なくなりました。それが功を奏してか、単純に運動に馴れたからかはわかりませんが、運動中に対向馬が来ても暴れることはほとんどなくなり、暴れてもすぐに落ち着くようになりました。

来シーズンに北日への出場は厳しいとは思いますが、江口さんからの引き継ぎを行い、現役が安定して高いクラスへと挑戦していける飛躍の年になればと思います。来シーズンは詰め物の入った障害を含んだクラスへの挑戦、初めての野外馴致と課題は多いので、1つずつこなしていってこれればと思います。

まだまだ可能性は未知数ですが能力としてはいいものを持っていると思うので応援よろしくをお願いします。

◆北稜号（ダノンアンチョ）◆



セン サラ 芦毛

平成19年2月18日生

北海道勇払郡安平町追分ファーム産

父 Unbridled' s Song

母 アンチョ

平成27年9月2日入厩

井 畔 貴 之
高 橋 春 南

わけあって、自分が前チーフからアンチョのチーフを引き継いだのは二年目（2016年）の5月でした。それまで自分は古馬で主に1，2年生の練習に使われていたチェリーと入厩したばかりでOBの方に騎乗、調教をお願いして自分は下から新馬調教を学ぶといった形でノーステアの馬責をしていましたが、アンチョのチーフになるということでチェリーのチーフを二年目の矢渡に任せる形になりました。

アンチョの性格は正直よくわかりません。部員のみならずはとても慕われています。馬房に近づけば顔を近づけてきて食べ物をねだるところ、性格が穏やかで噛んだり蹴ったりあまりしないところ、体が大きいところがその主な理由でしょうか。でも実際にチーフとして日々接しているとそのような「いい面」ばかりではないことがある意味当然なのではないでしょうかがわかってきました。

自分がチーフになる前のアンチョの運動はとても手を焼いていたようです。雪が積もった時期は、圧雪してある蹄跡から離れようとせず新雪の上は頑なに歩こうとしない。雪が溶けてからも人に集中しておらず、脚反応も悪くなかなかハミに出てこない。馬体が歪んでいて回転などで左右差が顕著に表れるとともに直線運動でもまっすぐ歩かせることが難しい。といったところがアンチョの課題だったと思います。以上の課題に対して、自分の技術だけでは運動内容を改善することは無理なのでOBの中津兄に騎乗などお願いして自分は中津兄の調教を下から学ぶとともに自分にできることは中津兄にみていただきながら行ってきました。

まずひき馬から見直しました。アンチョは馬体が大きく、脚に鈍いというところからも想像ができると思いますが動きがとろいです。同時に人をあまり上に見ていない、簡単に言えばチーフになった当初自分は完全になめられていました。よってまずはひき馬で人と馬との関係性を築き、元気よく人に集中して歩かせることを目標にやりました（もちろん騎乗しての調教も行っています）。具体的には、人が止まればすぐそれに反応して馬も止まる、人が走り出せば声による扶助なくても速歩する、人のペー

スに合わせて歩くことができる、人を追い越さないなどをできるようにしました。アンチョはとても頭がいい馬だと思います。いいことも悪いこともすぐ覚えてしまいます。ひき馬も愛撫と懲戒をうまく使うことで素直にできるようになりました。

ひき馬がある程度できるようになってからは調馬索を始めました。最初は中津兄に回していただきました。引き継いだ時は声に反応せずスイッチが入ってしまうとずっと走り続けるという状態でした。ひき馬で人の指示に従わなければいけないということを教えてから調馬索でもまずは移行をスムーズにできるように練習しました。同時にシャンボンを使って頭を低い位置で運動できるよう調教し始めたのですが、特に右手前では棒のように固く、シャンボンを使っても馬の首が外を向いてしまう状態でした。

この時期のFWは手綱を伸ばして2ポイントで馬の邪魔をなるべくしないよう速歩、駈歩を行いました。人が上で邪魔をしなければ十分前進氣勢があることがわかりました。1か月もすれば中津兄が騎乗すればFWはまとまった運動ができるようになってきました。

障害は80、90cmの経路は余裕をもって回ってこられる状態になりました。バウンス、コンビネーションは自分の練習に十分すぎる飛越をしてくれました。経路周りで飛越する際に踏み切りが遠くなりやすい、またまだ体を使った飛越ができていないということもあり週に2回ほど繰り返しコンビネーションをおこないました。コンビネーションは幅3mごとに垂直や高いクロスを並べたものです。(ノーザンでの競技内容は最後にまとめます)

索でシャンボンを使った調教と主に中津兄によるFWの調教の結果、7月の北日選手権の予選でアンチョは素晴らしい結果を出してくれました(得点率トップ3独占)。北大に来る前もノーザンなどで調教されており、素質は十分にある馬だと思います。しかし体の大きさのわりに繊細で人が邪魔したり、人との関係ができていなかったりするとその素質を引き出せない難しさがこの馬にはあるのではないかと思います。自分がアンチョとかかわっていたのは短く5月から8月ごろまででした。しかし大変密度の濃い、充実した日々をアンチョと過ごせたと思います。中津兄による新馬調教を学べたことはもちろん、実際に自分も索を回したり、騎乗したりして、自分のバランス練習や馬を動かすということ、馬と関わるということをアンチョから学びました。この場をお借りして中津兄とアンチョに感謝の言葉を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。

大会結果

主にノーザンホースパークで行われた大会による結果を記します。

- 5月 新緑馬術大会
 LB 高橋姉 減点0
 ステップアップ 井畔 減点0
 LC 羽二生 減点0
- 7月 北日本学生馬術女子選手権大会
 羽二生 57.348% (2位)
- 7月 国民体育大会予選
 LA 高橋姉 減点4
 LC 上野 減点12
 LAS&H 高橋姉 落下1
 LC 井畔 減点0
- 8月 北海道馬術大会
 LAS&H 羽二生 落下1
 LB 井畔 減点0
- 9月 北日小障害
 LA 高橋姉 減点8
 LC 井畔 減点0

主に高橋姉に高いクラスの経路を回っていただき自分も60cmから初めてLBの経路も回らせていただきました。まだまだ拙い身ながら、アンチョに騎乗して感じたこと、課題に思ったことなどを記したいと思います。まず自分は経路回りの際は2ポイントで1年を通して、騎乗しました。それは自分にはまだ3ポイントで馬の邪魔を一切しないで経路を回る力がないことが主な理由です。ノーザンでの初めての大会は正直緊張のしすぎであり覚えていません。ビデオからわかることは安定した2ポイントができず、また障害飛越時についていけず、結果馬の邪魔をしてしまったこと、スタート時に走られて慌ててしまい、結果手綱が長いまま経路を回ってしまったことです。この結果より北大に帰ってからは、とにかく馬の邪魔をしないこと、毎日考えながら乗って試合をイメージし、試合になったら慌ててしまう、ということを防げるように練習しました。国体予選は大会4鞍目ということもありしっかり動かせるか不安でした(アンチョは飽きやすいところもあるためです)。しかし事前に高橋姉が試合に出ていたこともあり、なんとか動かすことができました。アンチョはノーザンでの大会というものをよく理解しており、北大とは全然違った動きをします。自分は動いていない馬に乗るとどうにかしようと頭で必死に考えてしまい、体は馬上でバタバタしてしまい、結果馬の邪魔をしてしまうというのがよくない癖なのでこの走行では自分は気持ちよくできました。しかしアンチョの大きい跳びについていけなかったり、

回転で脚が使えず後半失速したりしたことが課題となりました。また準備馬場で脚扶助が足りず小さい回転ができない、障害にまっすぐ向かえないということも課題です。道大会は雨でした。それも大雨でノーザンの馬房から準備馬場に向かう道でも全然歩かせることができず、当然試合でもしっかり動かすことができませんでした。何回も書いていますが、アンチョは繊細でまたいやなものはいやとすぐわがままします。それを人がいうことを聞かせなければいけないのですが、自分にはそれほどの力がありませんでした。またこれはアンチョとは関係のないことですが、大雨の場合、大会のスケジュールが変更されやすいです。部員内で連絡をよくとりあう、放送をよく聞くなど、注意すべきことが多いです。この大会ではそういったところにまで自分は気を回すことができず、自分の競技時間の変更を知らないまま準備馬場に向かってしまい、練習時間に十分な時間費やすことができませんでした。このような状態では満足いく結果を出すことはできません。やはり馬に乗る技術だけでなく気持ちに余裕を持つことも同じくらい、いい結果を出すために必要だと改めて感じました。福島で行われた北日での試合はノーザンでのアンチョ以上にアンチョらしくなくすぐにでも走りやすい状態でした。原因として考えられるのは、福島についてから雨が続き十分な運動をさせてあげられなかったこと、それなのに飼いを減らしたり、インドアでのひき馬を長めにしたりしなかったこと、福島の競技場の馴致をほとんど行えなかったことがあげられると思います。畜大は一日に2回乗り、競技場への馴致を十分に行っていて、北大も見習うべきかと思いました。実際の走行ではスタートしたとたんに走られて潜られてしまったのでスタート前に脚を使いながら巻乗りをしたところ落ち着いて完走することができました。

馬体管理

アンチョは皮膚が弱いです。少しでも手入れをおろそかにするとすぐに後肢にケイタンができてしまいました。そのたびにカリ石けんで洗い、よく拭きました。また寝藁をよく食べるせいか、寝藁の質が悪いと蕁麻疹を出します。また蹄もそれほど強くないので適度な湿度を保つこと、馬房を清潔にすることが大切です。馬体のわりに体も性格も繊細なので関わる際は丁寧に扱う必要があると思います。ボロを食べているのではないかとのうわさがよくたちます。

最後に

今は高橋姉とともに二走、総合の全日出場を目指しています。アンチョと理解しあえたかはわからないけれどいい経験をたくさんさせていただけました。将来の北大馬術部のエースをめざして、がんばれ。

◆北暁号（ノーステア）◆



セン サラ 栗毛

平成20年3月5日生

北海道勇払郡安平町ノーザンファーム産

父 ゼンノロブロイ

母 ムガール

平成27年12月4日入厩

井 畔 貴 之

はじめに ノーステアとは

ノーステアが入厩したのは2015年の12月で現在8歳です。自分が担当し始めたのは2016年の2月からで10か月ほどの付き合いですが簡単にノーステアの特徴を記したいと思います。

- ・栗毛、馬格が大きい
- ・左前肢に骨片がある
- ・性格（扱い方）に癖がある
- ・扶助に対して軽いとは言えない

短い付き合いなのでおそらくこの馬のほんの少ししか理解していないと思います。自分がわかっている範囲でまとめるとこのようになります。馬格は大きく体高も部内で2番目を争うくらいで（1番は圧倒的にダノンアンチョです）、筋肉も年相応に発達しています。左前肢の骨片は競走馬時代につくったもので普段の運動には影響ありませんが注意が必要です。この馬の性格はおそらくこの馬が北大馬術部でやっていくうえで一番問題になることかと思えます。ノーステア本来の性格はとてもまじめで負けず嫌いだと思えます。乗ってしまえば素直でとても乗りやすい馬です。しかし手入れ時や馬房に入る際によく暴れます。競走馬時代に馬房内で人間に対して不快に思うようなことをされたという噂もありますが詳細はわかりません。自分ほどの付き合いでも手入れは快くやらせてはくれないことがしばしばです。他の部員はボロ取りをする際に空いている馬房に移してやるという状態です。大事なものは暴れたから、噛まれたからといってムキになって怒らないことです。馬も噛みたくて噛んでいるわけではなく、おそらく防御行為なのでその行為に対して攻撃すると、もっともっと防御

しなければいけないと馬は思います。もし噛まれた場合は怒らず敵ではないということを示してあげてください。また特に騎乗する際人が近づくと嫌がり暴れることがあるので注意してください。どの馬にも同じことが言えますがぜひ馬には丁寧に接してあげてください。扶助に関しては書いた通り、反応がいいとは言えません。入厩当初調教して下さったOBの方々も駈歩を出すことには苦悩していました。しかし前述したとおりのまじめな性格ではあるので正しく丁寧に扶助すれば指示通りに動いてくれるようになりました。障害に関しては自分が乗って経路回りやコンビネーションをやる際でも、コース取りが悪かったり、動かしきれていなかったり、人がバランスを崩したりしてもなんとか飛んでくれようとしています。これはこの馬のいいところだと思いますが、おそらくまだ馬が障害前で止まることを覚えていないからだと思います。新馬の頃から今のように自分の技術不足でノーステアの足を引っ張ってばかりではこの長所もなくなってしまうのでなるべく気持ちよく馬が動けるよう練習し、騎乗しています。経路回りや普段のFWも基本2ポイントで乗ってきました。簡単にではありますがノーステアという馬の説明をさせていただきました。今後もっとこの馬のことを理解できるよう日々大切に接していこうと思います。

調教に関して

この馬の調教に関して自分は何もしていません。ほぼすべてOBの方に調教していただき大会もまずOBの方や高橋姉に出場していただいてから下のクラスに自分ないしはほかの2年生が出させていただくという形でした。唯一秋に行われた北大ホースショーだけは自分で最初から動かして試合に出場しましたが自分の至らない点が多々ありノーステアに苦労ばかりかけさせてしまいました。

ここでは自分が勉強させていただいたことを中心に記させていただきます。

まずこの馬の調教過程での特徴は大きく2つあります。1つ目はいろいろな人に騎乗し、調教していただけたことです。入厩してから春ごろまでは主に江口兄に騎乗していただきました。その後小山兄にもお願いし、夏ごろからは中津兄にも乗っていただきました。高橋姉にも大会に出場してもらい、部班にはいろいろな人で参加することができました。調教一年目からこれほどいろいろな人を乗せることができる馬はあまりいないのではないかと思います。2つ目は覚えが早いことです。横木通過、調馬索、キャバレッティと不器用ながら覚えるのが早く初めてのことを理解する能力は高いと思います。自分が馬の邪魔をしてしまってもあまり気にせずやってくれることが多々ありました。2年目の自分でも早くから乗らせていただけたこと、多くの人を乗せることができたことはノーステアの才能とも言えるでしょう。大学馬術部に適した馬であるとも言えるのではないのでしょうか。

さて調教過程について順に説明させていただきます。

12月に入厩し冬の間は三種の歩様の確認、向上と、ひき馬、騎乗での横木通過、低いクロスの飛越をOBの方々をお願いしました。FWに関して、この馬の競走馬時代の動画を見てもわかりますが、頭が高く、背中を使わずに走っていました。それは北

大に来てからも同じで特に駈歩はばらばらで、そのために速歩からの駈歩発進に苦勞し、かつ曲がりづらいといった状況でした。日を重ねるごとに体の使い方がわかってきたようでしたが、未だにこの点がノーステアの課題の一つでもあります。横木通過は躊躇して跳べないということはなかったのですがなかなか大跳びすることを直すことができませんでした。

春からはキャバレッティ、クロスのコンビネーション、横木経路、ライン練習、ブルーシートの馴致を行いました。障害はよく燕麦を使って調教しました。燕麦は特にこの馬には有効で、止まることはなく、しばしば障害は見ずに燕麦の入ったバケツを見て障害に向かうといった状態でした。燕麦を使うことで障害を必要以上に意識せず、いやなものだと思わずに調教できたと思います。燕麦を使いすぎて燕麦がないと跳べない馬になってしまうこと、運動時呼吸が荒いときは気管に燕麦が入ってしまうこと、また燕麦ばかりに注意が行って障害をおろそかにしないようにすることを注意して行いました。また調馬索によるシャンボンを使った調教も足場がよくなってから行いました。シャンボンを使うことで頭を下げゆったりと体を使った運動ができるようにしました。索の理解も早く5月には自分が回せるほどでした。自分が乗ってOBの方に見てもらえるようになったのは5月の中旬からです。3月までは雪で運動できない日が多々あったことを考えると5月から2年生の自分が乗れるレベルまで育ったノーステアのすごさおよびそこまで調教してくださったOBの方々のすごさがよくわかると思います。はじめは速歩からの駈歩発進や一定のペースを維持することを中心に行いました。やはり駈歩発進は人がバランスを一定に保てず上手くいきませんでした。しかし1回駈歩が出るとそれを維持することはあまり困難ではなく、自分のバランス練習をたくさんやらせていただきました。障害飛越は人が邪魔しないことだけを考え、たてがみをつかみ跳んでからよく愛撫してあげることを徹底しました。6月には単発で80cmほどの垂直、オクサーをやらせていただけました。

夏以降はまだ体を使った駈歩ができないという課題は残るものの、シャンボンを使った調馬索による調教をつづけ、障害に関してはコンビネーション、ラインを週に2回ほど、それ以外の日は単発の障害をやるといったようにほぼ毎日障害に向かわせたことで次第にノーザンでの大会の高さを上げていきました。以下に今シーズンの結果を示します。

5月

半澤杯 クロス 江口兄 減点0

新緑 60cm 江口兄 減点0

7月

国体予選 LC 小山兄 2反E

LC 江口兄 完走 (OP)

LC 中津兄 減点18

8月

道大会 LC 高橋姉 減点0

9月

北日 LC 高橋姉 減点0
秋自馬 LB 高橋姉 減点5
LC 上野 減点0

10月

地区大会 90cm 高橋姉 減点8
70cm 井畔 減点0
ホースショー 80cm 井畔 減点8
90cm 井畔 減点0

ノーザンの大会に参加し始めた当初（新緑や国体予選）は周りの馬や人に気を取られ、あまり集中できずに暴れたり、動かさきれなかったりといった状態でした。新緑ではポニーに驚いてしまい準備馬場で暴れてしまいました。また競技ではオクサーにひるむことがありました。国体予選の反抗は観客に物見をしたことや急に高さを上げすぎたことが原因だと思います。FWではだんだんとまとまった運動ができるようになってきたが、障害となるとまだばらばらになってしまうという状態でした。その後ノーザンにも慣れ、福島での北日でもLCに参加することができました。この馬の減点はほとんど、動かせていないがための減点です。練習馬場から、もっといえば北大の馬場からしっかり動かすことがこの馬に乗っていく上で重要なことだと思います。

野外馴致は主に江口兄に騎乗していただき、ノーザンでの大会ごとに参加しました。簡単なFWから始め、乾濠の上り下り、バンケット、ブラシ障害、低めの丸太障害などしていただきました。福島では高橋姉に乗っていただき、低めの固定障害を何個かやっていただきました。

最後に

述べさせていただいたことではありますがノーステアが今ここまで成長したのはひとえに多くのOB、それと高橋姉のおかげです。江口兄、小山兄、中津兄には多く騎乗、指導していただきました。川崎兄には野外馴致でお世話になりました。自分が乗ったわけではないですが「この馬成長したな、いい馬だな」といっていただけた時はわが子がほめられたがようで、とてもうれしかったです。喜十郎さんにも何度か騎乗していただきました。この場をお借りして申し上げます、本当にありがとうございました。おそらく、感謝の言葉よりも結果を期待しているのではないかと思います。自分が部活をつづける上での目標の一つにノーステアと北日、全日に出場する、を掲げています。お世話になった方々にいい報告ができますよう、これからも精進してまいります。よろしくお願いします。

この部報をみている後輩へ。ノーステアがどうなっているかはわかりませんが、どうか嫌いにだけはならないでください。可愛がってあげてください。それだけです。

離 厩 報 告

◆北焔号（ファイアマリオ）◆



セン サラ 黒鹿毛
平成6年3月25日生
北海道白老町社台牧場産
父 トウショウマリオ
母 アルバーエルン
平成21年10月31日入厩

羽二生 香 成

今年ついに、これまで北大馬術部をメインとなって支えてきた北焔号（ファイアマリオ）が引退を迎えました。私が携わったのは、たった半年間ではありましたが、マリオと過ごした半年を振り返り、マリオから教えてもらったことをここに記そうと思います。

マリオには、入部してすぐの5月あたりから全学を目指して乗らせていただくことになりました。初めて乗ったマリオは、風の音に反応して立ち上がっては走り出しを繰り返す、テンションが上がってどうにもならない、という感じでした。北大での練習は日々30~40分の常歩、間1.1~1.2mのキャバレッティー通過を行いました。乗り始めたころは、左右の歪みが気になったので、マリオの脚の負担にならない程度の横運動を入れて、歪みをなくすことから始めました。代々の先輩方もおっしゃっていますが、マリオはしっかり調教されている馬で、少し使っただけでとてもよく反応してくれました。障害は大会10日前くらいに1度低めのものを飛ぶくらいでした。

初めてマリオと臨んだ大会は7月の国体予選のMD。大会会場でも、暴れることはなく、先輩曰く例年になく落ち着いていたようでした。初めてのマリオとの走行は一言で表すと“感動”でした。私がしたことといえば、マリオの背中に乗っていた、それだけです。結果は満点で帰ってくることができて、ジャンプオフも満点、マリオとのデビュー戦は、青リボンで終わることができました。最初の大会後は、脚の疲れもなく、次の日には歩様もいつも通りに戻っているほどでした。

そして、次に迎えたのが北日学。マリオにとっては単なる通過点でしかなかったと思いますが、何もかも初めての私にとっては、一つの大きな関門でありました。今年には久々の福島での開催とあって、暑さが心配されましたが、幸い大会前は台風直撃で、むしろ寒いくらいだったので、その点に関して問題はありませんでした。福島での運動では、多少跳ねることはもちろんありましたが、手に負えないほどではありませんでした。1日目のフレンドシップ。確認程度に少なめに飛んで終わらせる予定でした。が、水壕で3回止まられて、最後には飛ばせることができましたが、不安の残るフレンドシップとなってしまいました。次の日迎えた本番。第一走行では、終始持って行かれ気味。マリオは行き過ぎているくらいがちょうどいい、なんていいですが、ちょうどいいを超えていきすぎていたように思います。そして問題の水壕。本番でもまた止まられました。注意していったつもりだったのですが、やはりいきすぎていたというのが原因ではないかと思います。2回目は何が何でもいかせようと、強い気持ちで向かい、なんとか飛ばせ、結果減点16で第一走行を終えました。第一走行の反省をいかして、もう少しもって待っておくというイメージを持って、第二走行に臨みました。第二走行ではちょうどいいペースで、馬が起きた状態で、ハミに対する感覚もよく、国体予選のときのような走行をすることができ、減点4で走行を終えました。最終結果は第4位で、全学の権利を獲得することはできましたが、正直悔しかったです。二走目を終えたマリオは、それまでに見たことないくらいに歩様が悪かったです。北日学後は、2週間ほどは休養、その後も全学まで、一度も障害は飛ばず、常歩だけを日々行いました。北日学後くらいからでしょうか、春と比べると明らかにマリオの元気がなくなっていくのが目に見えてわかりました。日に日に衰えていくようでした。

5月に乗り始めてから、本当にあっという間に、全学を迎えることとなりました。今年で引退のマリオ、今年で最後の馬事公苑、マリオの故郷である馬事公苑。馬事公苑に行っても、大きく暴れるようなことはなく、終始落ち着いていました。迎えた1日目のフレンドシップ。またしても、水壕でした。勢いで向かってしまったのが悪かったのですが、ただただテンションが上がって拒否され続けました。次の日の本番。ここでも私の弱さがでてしまい、マリオが初めて見る障害だったとはいえ、流れできられ、二反抗失権。申し訳ないことをしました。できる馬のはずなのに。本当にごめんなさい。マリオを任せてくださった中さんをはじめ部活の先輩方、日々馬責としてサポートしてくださった清田さん、大会中にサポートしてくださった馬付きの皆さん、そしてマリオに、申し訳ないです。大会を終えたマリオは、一回一回立ち止まるほどのびっこでした。脚にそこまでの負担をかけさせてしまった上に、不甲斐ない結果で終えることになってごめんね、マリオ。

長くなってしまいましたが、以上が私とマリオが過ごした半年間です。マリオ大先

生からたくさん教えてもらいました。全日本学生を経験させてもらいました。マリオに乗っていると、どんな高さの障害も怖くありません。マリオはすごい馬です。もっとももっと強くなる、上手くなる。2年、3年、4年になったときには、この舞台で私大に負けなくらいの結果を残すんだ。そう鼓舞してくれました。

ずっと探し続けて見つからなかった離厩先ですが、驚くほどにあっという間に決まり、旭川乗馬クラブさんに引き取っていただけることになり、12月頭に離厩しました。

最後になりますが、マリオのようなスーパーホースの最後の大切な年に一年の私を乗せてくださった皆様に、本当に感謝しています。また、チームマリオの中さん、清田さんにもたくさんお世話になりました、ありがとうございました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。

マリオへ。競技生活お疲れさま。ゆっくり休んでね。こんな私を乗せてくれてありがとう、たくさん教えてくれてありがとう、全学の舞台を経験させてくれてありがとう。もっとももっとももっと上手くなれるように頑張るよ。

◆チェリーアドミラル号◆



セン サラ 芦毛
平成5年4月2日生
北海道様似郡様似町川部牧場産
父 サクラユタカオー
母 チェリーユミコ
平成22年8月1日入厩

矢 渡 光

私は5月末から9月末までチェリーのチーフを務めさせて頂いた。チェリーは高齢の練習馬であり、毎年チェリーの目標として掲げられるのは障害を飛越できる状態を維持することであり、今シーズンもこの目標を第一としてやっていった。そして運動面で目標としたことは左右の手前で動きに差があったためその差をできる限りなくすことであった。元々右手前があまり得意でなく、内方姿勢をとらずに頸が外に向くことが多かったため改善できるように取り組んだ。

先ず、馬体管理について結論から言うと最後の大会であった北大ホースショーに1年生がチェリーで出ることができたため最低限状態を維持できたと思う。今年はチェリーの体にかかる負担の大きさからノーザンの大会に連れて行くことをやめ、北大の部内試合で使っていくことをメインとした。7月頃までは2年生の60~100cmクラスの経路走行の練習、それ以降は1年生の障害練習で主に使った。経路走行の前日は常歩のみにするなどしてできる限り負担を少なくできるようにした。手入れの時にストレッチやマッサージも行った。そのおかげもあってか北日選手権というイレギュラーもあったが故障もなくシーズンを終えられたことは良かった。しかし、9月初めからケイクンになりある程度治った後も元々あった立ち腫れが酷くなってしまいそれが良くなならないまま離厩となってしまったことは悔やまれる。厩舎肢巻きを巻いてみるなど試みるべきことはあったはずだが、いずれ良くなるだろうとどこか楽観的になってしまっていた点は反省している。

次に運動について左右の差は速歩までは多少良くなったが、駈歩になると元通りになってしまい今の自分の技量では馬の姿勢などを矯正することは難しいと痛感した。自分が毎回乗り直しをするのではなく、上級生に定期的に乗り直しをお願いして自分のできない部分をカバーしてもらったべきだったと思う。

正直チェリーに何かしてあげられたというよりはチェリーに様々なことを教えてもらったといったほうが正しいと思う。チェリーのチーフとしては短い期間であったが、その中で得られたことは本当に多かった。それらをこれから他の馬に還元していかれたらと思う。

最後に、チェリーを快く引き取ってくださったマオイホースパーク様にこの場を借りて改めて感謝申し上げます。

◆ピュアメモリー号◆



牝 サラ 栗毛
平成14年3月12日生
北海道沙流郡門別町産
父 マヤノトップガン
母 ミルメモリーズ
平成25年4月13日入厩

平澤礼奈

ピュアメモリー号（以下ピュアと表記する）は練習馬として2013年に北大馬術部にやってきた馬であり、自分は去年の2月からピュアのチーフを担当させていただきました。自分はチーフとして馬の運動を任されるといったことはそれまでほとんど行っていなかったためわからないことも多く、試行錯誤を行いながら調教を行っていましたが、もともと障害を恐れる性格やあまり脚も丈夫でないことも考慮して2016年4月30日に北大馬術部から大浦牧場様へ離厩することになりました。

担当期間が短かったこともあり自分がピュアにできたことは少なかったのですが、以下簡単に調教の内容を記させていただきます。

上にも記載した通り競技馬としてではなく練習馬として活躍していたのですが、もともと前に前傾した運動をしやすいこともあり、部班など多数の馬と練習を行うと前後の馬との距離を一定に保つのが難しく、近づきすぎると暴れる等練習馬として起用していくうえで問題となる点も多く、まずそこを克服することを目指し運動を行いました。

運動する際に気を付けたことは前傾姿勢にならないことと馬のペースにつられるのではなく自分のペースに合わせてあげることが注意して行いました。特に前者はピュア自身がどんどん前にのめった運動をする癖があり、それが原因で前足に負担をかけて歩様が悪くなるという状態になっていたために馬体管理の面でも特に注意して行っていました。

運動の内容としましては部班だと前述のとおり暴れてしまうことが多かったため各個運動で自然な停止・発進を行う、安定した姿勢・ペースで速歩を維持すること。ま

た、少しでも障害にならすため横木やキャバレッティーの通過を中心に行いました。ピュアの足の負担を考えると一日2鞍で30分程度の運動しかできず、自分が担当を始めたのが冬季で馬場の状態もあまりいいとは言えない状況だったのでそれほど充実した調教内容であったとは言い難いですが、徐々に落ち着いてはいたように感じました。離厩のひと月前くらいには少しずつではありますが部班にも参加することもありましたが、下級生が乗ると以前のように距離を守れず暴れたり手綱を引っ張って馬が嫌がったりして満足な状態ではなかったです。

自分の力不足でピュアが離厩することになってしまったのは非常に悔しいですし、もっと練習馬として乗っていきたくった等後悔はありますが、ピュアには離厩先で新たな生活を送ってほしいと願っています。

入 厩 報 告

◆ドラゴンケーニツヒ号◆



セン サラ 黒鹿毛
平成24年2月5日生
北海道勇払郡安平町産
父 アドマイヤドン
母 メイプルシロップ
平成28年10月8日入厩

杉 田 優

10月8日にノーザンホースパークより入厩いたしました。馬体は小柄ですが歩様、特に駈歩が良く、気性もおとなしいです。現在は平成26年卒のOBの小山さんに調教をお願いしております。北大に来てからは簡単なFwと横木通過、キャバレティ、引馬でのブルーシートや丸太の馴致なども行いました。これからの期待できる馬かと思われれます。

北海道大学水産学部馬術部

主将 寺嶋 伊武樹 (学部3年)

こんにちは、北海道大学水産学部馬術部代16期主将を務めさせてもらっている学部3年の寺嶋伊武樹といます。現在の部員数は3年生が6人、4年生が6人、院生が3人と合計で15人と少ない人数で活動しています。また、札幌での馬術部出身は自分を含めて4人と函館から始めた方がほとんどです。

現在の水産学部馬術部の活動の拠点は函館競馬場内の乗馬センターで、乗馬センターの先生のご厚意により、毎週土日の午前少年団に混じって先生方からご指導して頂きながら練習しています。本学とは違い自馬を持っておらず乗馬センターの馬に乗せてもらい練習させてもらっています。そのため、本学(札幌キャンパス)の馬術部のように毎日馬に触れるという機会はなく、練習時間も格段に少ないのが現状です。大会も函館市近郊ではあまり行っておらず、年に2回本学の馬場で開催される大会(半澤杯、北大ホースショー)と乗馬センターで行う競技会が主に私たちが参加する大会です。いくつか本学と比べて環境が劣る部分もありますが、それ以上にJRAの先生方にご指導してもらえるのでとても恵まれている環境だと思います。

しかし、現環境において一つ問題がありそれは部活に参加する人数が少ないということです。本学と違い練習には強制ではなく、自分の都合に合わせて参加するのがここ最近の練習形態です。斯く言う自分も主将でありながら練習には週1程度しか参加できず、先輩方に顔むけでない状態です。4年生や院生の先輩方は研究がより忙しくなり練習への参加ができない状態になります。3年生の私たちもこれから研究室への参加や就活で忙しくなり今までほど参加できなくなると思います。この状態のまま来年度、新3年生を迎えるのは先輩として情けないことです。なので、来年からは部員が今まで以上に部活へ参加してくれるように働きかけていく所存です。「時間が無い」のではなく意識を変えて「時間を作る」ようにして部活への参加を増やしていきます。まず、主将である自分が部活へもっと参加していき本学にも劣らない活気のある部活にしていきます。

最後になりますが、本学の馬術部の方には半澤杯やホースショーで大変お世話になっております。半澤杯では水産学部馬術部だけでなく乗馬センターの少年団たちにとっても自馬で参加できる大会であり、毎年目標にさせてもらっています。また、ホースショーでは貸与馬での対応をしてもらうことが多く、本学への負担を増やしてしまい申し訳なく思っています。本学との交流において、他大学との接点が少ない水産学

部馬術部にとっていい刺激となっています。今後とも、より一層の交流をよろしくお願いたします。

長くて稚拙な文になったことをお許し下さい。末筆ながら、これからの本学馬術部の健康とますますのご活躍をお祈り申し上げます。



卒部にあたって

● 佐 治 ひな子 (医・主務)

昨年9月に北大馬術部を卒部してから約半年間がたちました。半年たってようやく馬術部気分が抜けて余裕ができ、人間らしい(?)生活を送ることができるようになりました。

現役時代、馬術部で過ごした4年間はとても長く感じましたが、今振り返ってみるとやはりあっという間だったのかもしれませんが。私にとって馬術部の4年間は主に自分自身との闘いだったように思います。馬が好きという気持ちがとにかく大きく、馬のために北海道大学に来たということもあって、迷いなく馬術部に入部しましたが、初めての一人暮らし、5時集合の毎日、学校生活と慣れないことばかりで、日々奮闘していました。4年間やり遂げてようやく、自分に自信が持てるようになり、自分から動けるようになりました。もともと極度のあがり症で、障害の試合で、覚えたはずの経路が真っ白になることがしばしば。周りの音が何も入ってこなくなり、ノーザンの練習障害を逆飛びしたこともありましたが(先輩が障害前に立って止めてくれていたのにも気付かず先輩を轢きそうになりました…)。また、ご存知の方が多くは思いますが、遅刻には本当に悩まされました。このような痛すぎる(?)失敗を通して、自分の得意不得意や好き嫌いなども知ることができ、対処ができるようになりました。

現役の皆さん、楽しみながら、時に悩みながら、馬術部をやり切ってください。できればチーフを経験してください。そして馬のことを考え、大切にしてください。そうすれば彼らはきっと良きパートナーになります。

最後になりましたが、お世話になった指導部やOBの方々、先輩、後輩、ドンパ、関わって下さった全ての方々、そして馬たちには本当に感謝しています。来年度より東医体(東日本医科学学生総合体育大会)馬術競技に出場するため、あと二年間にご迷惑をかけると思いますが、よろしく願い致します。ありがとうございました。

● 中 一 輝 (経済・主務)

大体3年半馬術部で活動しました。その思い出について、思い出してみましたが、苦しく、嫌だったことの方がしっかりと覚えていて、今考えてもよくやったなと思います。それでもいつの間にか朝早く起きて、部活に行く日々が当たり前になりました。退部願いのメールを消しては書いてを繰り返したことも懐かしい思い出です。そう言いながらも、障害を馬で越えた時の感動は今も忘れられないです。これから馬術部で得たいろんな経験を活かして頑張ろうと思います。

部 員 紹 介

3年目

◎ 杉 田 優



トロッター 青鹿毛

人の扶助に敏感で応えようとしますがから回ることがあります。1つのことに集中すると周りが見えなくなります。物怖じしない性格なのでクロスカントリー頑張ります。とにかく頑張ります。

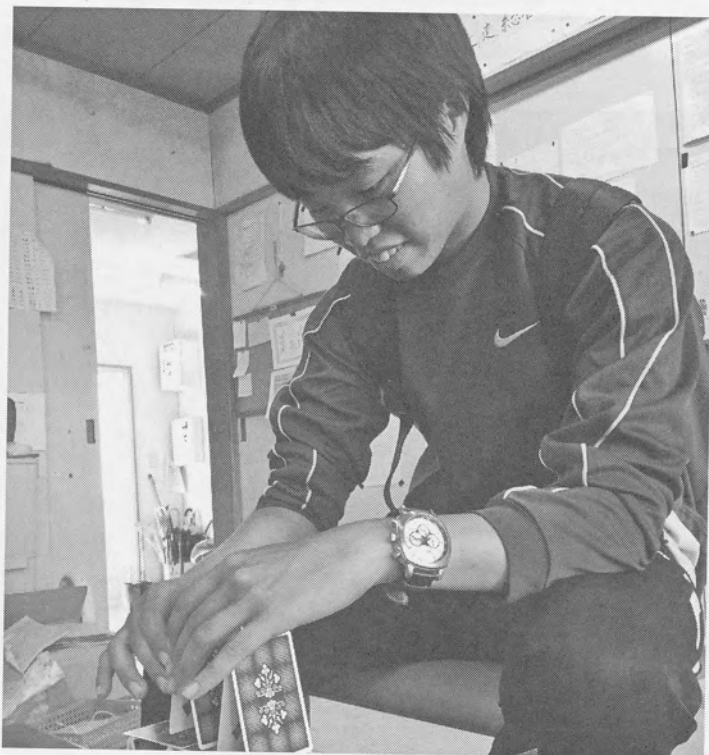
◎ 高 橋 春 南



どさリンガー 栃栗毛

小柄ですがよく食べます。北大一の食いしん坊！パワーと根性は馬一倍！

◎ 本丸尚人



サラ 芦毛

優しくて頼れるジェントルマン。馬術部のお父さん。年下の馬たちに餌を与えてくれます。

2年目

◎ 井 畔 貴 之



サラブレッド 黒鹿毛

何を考えているのかよくわからない馬です。頭がいいからか、たまに勝手な行動をするのできちんと手綱は握っておきましょう。

◎ 上 野 健 太



アラブ 鹿毛

パワーがあるいい馬です。叱り過ぎるとやる気をなくしてしまうのでたくさん褒めてあげましょう。故障が多いので頑張らせ過ぎないように気を付けましょう。

◎ 大木 八 恵



サラ 鹿毛

サラサラのたてがみを持つ美しい馬です。牝馬ですが度胸があり、どんな障害にもビビらず向かいます。器用なので馬場もこなせます。

◎ 桑本 涼 成



クォーターホース 白毛

おとなしくよく働きます。我慢強い性格ですが一度に色々要求しすぎると爆発してしまうのでやめましょう。チョコチップクッキーをあげると喜びます。ミスターイトウのがいいです。

◎ 平澤 礼奈



どさんこ 河原毛

人のしぐさによく反応し、愛嬌がありますが、返事はだいたいテキトーです。よくものを壊します。よくこけます。

◎ 矢渡 光



ハノーバー 芦毛

おだやかで大きな馬です。優しい目をしています。人見知りなので最初はなつかないかもしれませんが、時間をかけて向き合えば、きっと心を開いてくれるでしょう。

1年目

◎ 菅野隼人



サラ 青鹿毛

優等生タイプです。静かで基本的には騎手の指示には反抗しませんが、嫌だと思った乗り手には反抗します。ねずみが好きで、馬房の中で共生しています。

◎ 熊倉大騎



ハノーバー 黒鹿毛

真面目ですが、心の中につらい気持ちを閉じ込めています。基本的に意味不明です。騎手との意思疎通がうまくいきません。かまってほしいようにしていますが、あえて皆かまいません。

◎ 須藤 美瑛奈



どさんこ 月毛

いつも必死で頑張ります。愛らしい仕草でみんなを和ませてくれます。食べ物を与えるととても幸せそうに食べてくれます。

◎ 羽二生 香成



サラ 栗毛

今後の活躍が期待される馬です。好奇心旺盛でたまにはっちゃんけます。急にスイッチ切れます。人懐っこくて人と触れ合うのが大好きです。

◎ 山 川 智 大



中半血 青毛

目力やばいです。まつげバツサバサです。

現役部員名簿

氏名	学部	役職
3年目 高橋 春南	農学部	主将
本丸 尚人	理学部	主務
杉田 優	工学部	作業
2年目 井畔 貴之	獣医学部	副将
上野 健太	理学部	馬匹
大木 八恵	医学部	運営
桑本 涼成	理学部	作業
平澤 礼奈	獣医学部	運営
矢渡 光	経済学部	会計
1年目 菅野 隼人	水産学部	馬匹
熊倉 大騎	水産学部	作業
須藤 美瑛奈	理学部	運営
羽二生 香成	医学部	運営
山川 智大	獣医学部	馬匹

後援会報

北大馬術部の部活動の方向は

会長 市川 瑞彦

最近現役諸君から部員の間で部活動に対する意識や目的に幅があり、共通の目標を設定して共有し、一致団結して向かっていくことが簡単ではないとの声を聞く。体育会所属の運動部である以上、大会でいい成績を上げることが最も重要であることは言うまでもないが、それではいい成績を上げさえすればそれでいいのだろうか。私は、同時に大切なことがあると思う。

この問題は、馬術だけの問題ではなく、広く大学スポーツをどう位置づけるかという一般的な問題であるようである。半年ほど前に、朝日新聞のオピニオン&フォーラム「争論」欄に「大学スポーツの産業化」は是か非かについて賛成及び慎重・反対の立場からお二人の意見が掲載されていた（2016-10-8朝刊）。以下に要約して紹介したい。

賛成の立場は、大学スポーツの産業化は必要で、大学が指導者を選び、トレーナーを置く。それらのコストは、アメリカのように、大学の施設を有料で貸すなどして収益を上げてそのお金を回すというものです。この方向は大学スポーツのプロ化であろう。馬術では、なにやら韓国朴大統領のお友達の娘さんのケースが想起される。スポンサー、高価な外産馬、コーチ、推薦入学…。

それに対して、慎重・反対の立場は、

『日本の大学スポーツの良さは、だれにでもオープンだということ。傑出した選手もそうでない選手も、一つの「部」に所属し、組織が運営されていく。試合に出られる選手は「控え選手とともに」という気持ちで試合に臨み、下支えする選手もチームに誇りを持つ。こうした人間形成の場としての教育的意義もあります。

これが米国のようにビジネスと結びつけられていくと、勝利至上主義に陥りやすくなります。学生はますますスポーツだけに明け暮れ、大学も組織ぐるみで勝つ方向を追求しかねません。大学の運動部は本来、本分の学問と課外活動としてのスポーツの両立をめざす学生が割を食わない場であるべきです。』次のように言う。

皆様のご意見はいかがでしょうか。私は、日頃から機会があると言ったり、書いたりしてきましたが、上の慎重・反対の立場を支持しています。北大馬術部は運動部である以上、北日本・全日本学生馬術大会でよい（団体）成績を目指すという目的の共有が大前提として、それぞれの部員の部活動における役割をお互いに認め合い、部員それぞれの目的に応じた活動が保証され、実現するような部活動を追求してほしいと思っている。全日本学生馬術大会での上位校の選手は、スポーツ推薦入学で入部してくる乗馬歴の長い学生が外産馬に乗って出場している。これに対し、大学に入ってから馬に乗り始めた部員を交えて、競走馬を廃業したサラブレッドを自ら調教した馬に乗って、団体で入賞して「一矢を報いる」のをぜひ実現したいし、またそれは可能ではないだろうか思っている。

事務局より

北大馬術部後援会事務局 石川 信行 (H2卒)

平成2年卒で事務局を担当している石川と申します。指導部体制が発足し、一部のOBにはいろいろご負担をおかけしている状況ですが、サポートすべき後援会の活動がすっかり停滞してしまい、ご迷惑をおかけしました。ひとえに事務局担当の私の責任によるところが大きいです。反省方々、経緯をご報告いたします。まず昨年度の後援会報につきましては、現役との連絡不足等から、発行にこぎつけることができませんでした。とりいそぎ部報に振込依頼用紙を同封いたしましたが、ご案内文書を同封し忘れたため、会費納入に思いが至らなかったOBが多かったようです。大変失礼いたしました。また、こちらも諸般の事情があったのですが、後援会の総会がここ数年不実施となっており、こちらにつきましてもご迷惑をおかけしておりました。

このような窮状をみかねて、OB有志が新年会を企画してくださり、去る平成29年1月21日にOB多数出席のもと、新年会が開催され、その際に多くの意見をいただきました。

まず、現役支援に当たった後援会の強化が話題となり、具体的な提案もありました。これらについては今後検討していきたいと考えております。

また、業務合理化の一環として後援会報の部報への統合が意見として出され、今回の合本ということになりました。

私事にはなりますが、昨年推挙され北海道乗馬連盟の理事となりました。市川会長とも相談し、別の立場から現役を支援すべく、後援会事務局につきましては実務は他の方にお任せし、総括としての立場とさせていただくこととなりました。新しい体制になりましても引き続きの諸先輩方のご指導ご鞭撻をいただければと思います。

2016年(平成28年)東京OB会便り

北大馬術部東京OB会 本村洋文

2016年(平成28年)東京OB会の主な活動を報告致します。

1. 平成28年 東京OB会 「会員」と「年会費」

・<会員>(平成28年12月31日現在)

- ①北大馬術部 東京OB会 = 148名
① 〃 後援会(北海道内) = (92名)
② 〃 〃 (その他全国) = (109名)
北大馬術部後援会(合計) = (349名)

*「東京OB会」名簿の住所変更などで点検してありますが、「後援会」(北海道)(その他全国)の名簿は「部報」名簿からの推定です。

・<年会費>

東京OB会では「平成28年度会費」として後納分2名を含め「82名分」をお預かりし、札幌の後援会事務局に納入しました。ご協力が難うございました。お預かりした方のお名前は以下の通りです。(東京OB会事務局受預分。札幌へ直接「後援会費」を納入された方は含みません。)

◎平成28年度「東京OB会 年会費」受領名簿 (80名+後納2名) (敬称略)

西村雅吉 (S15)	加藤 元 (S31)	千田哲生 (S31)	加藤昌太郎 (S31)	岡本 洸 (S31)
宮澤 寛 (S32)	樋口正明 (S34)	生田勝一 (S34)	中村美幸 (S34)	村山 哲 (S34)
森本悌次 (S35)	佐伯雄二 (S35)	小長谷善高 (S35)	高林嬉子 (S36)	河原紀夫 (S36)
大場善明 (S37)	中村せつ子 (S38)	清水 洋 (S38)	志水一允 (S38)	宮崎 健 (S38)
原 重一 (S38)	玉澤一晴 (S38)	恩田正臣 (S39)	高木佑太 (S39)	横田 肇 (S40)
野田行文 (S40)	近藤喜十郎 (S41)	黒澤道雄 (S41)	梶山泰嗣 (S41)	松尾英彦 (S41)
八木澤守正 (S41)	五十嵐 章 (S43)	池田統洋 (S43)	村井弘一 (S44)	春田恭彦 (S44)
斎藤張樹 (S44)	武田正宣 (S45)	本田 徹 (S45)	梶村哲世 (S47)	横山豊昭 (S48)
江口州志 (S50)	景山博文 (S50)	本村洋文 (S51)	千葉晶子 (S51)	森 巖 (S51)
大吉淳子 (S52)	桑田壮平 (S52)	水井とく子 (S52)	長屋清隆 (S53)	於保淳子 (S53)
本城敬文 (S53)	三好功悦 (S54)	西村 円 (S55)	松岡 功 (S56)	高橋 均 (S56)
岩橋由美子 (S57)	増田美希夫 (S58)	小泉清重 (S58)	石井洋行 (S58)	名越正泰 (S59)
町田雅人 (S59)	丹野宏昭 (S60)	奥村浩美 (H5)	松原貴史 (H7)	谷地 織 (H8)
松原 薫 (H9)	亀山 巖 (H10)	尾崎哲浩 (H12)	杉山賢治 (H14)	小野元也 (H14)
堀内太郎 (H15)	武井 亮 (H16)	木村滋之 (H16)	尾崎紘子 (H17)	前田晋也 (H18)
林 宣隆 (H19)	一色真明 (H19)	関田愛子 (H19)	宮本 亮 (H21)	佐合義弘 (特別)

(以上)

2. 平成28年行事報告

(1) 平成28年「新年会・総会」(2016/1/30)

北大馬術部東京OB会では、平成28年1月30日(土)アイビーホールで「平成28年度総会・新年会」を開催しました。年初で何かとご多用のところ、総勢28名の楽しい新年会となりました。今回は「馬術部仲間たちのその後を知りたい」と、S32農学部卒の中根豊郎氏の初参加もありました。ほかご出席いただいた方は以下の通りです。(敬称略)

千田哲生 (S31)	加藤 元 (S31)	加藤昌太郎 (S31)	宮澤 寛 (S32)
中根豊郎 (S32)	樋口正明 (S34)	生田勝一 (S34)	河原紀夫 (S36)
大場善明 (S36)	宮崎 健 (S38)	志水一允 (S38)	恩田正臣 (S39)
(恩田氏夫人) 恵子様	野田行文 (S40)	松尾英彦 (S41)	梶山泰嗣 (S41)
八木澤守正 (S42)	池田統洋 (S43)	春田恭彦 (S44)	景山博文 (S50)
本村洋文 (S51)	桑田壮平 (S52)	本城敬文 (S53)	三好功悦 (S54)
名越正泰 (S59)	町田雅人 (S59)	杉山賢治 (H14)	宮本 亮 (H21)

(2) 東京OB会「2016かなやま乗馬会」(2016/5/7~8)

東京OB会では5月7~8日、群馬県太田市「かなやま森林馬事公苑」で恒例の「2016かなやま乗馬会」を開きました。新緑溢れる「かなやま馬場」には樋口会長、恩田苑長など会員9名が参加しました。なかでも北大文学部大学院の近藤喜十郎氏(S41)が昨年に引き続きわざわざ札幌から空路のご参加でした。今回の乗馬会出席者は次の通りです。(敬称略)

樋口正明(S34) 生田勝一(S34) 高林嬉子(S36) 大場善明(S37)
近藤喜十郎(S41) 武田正宣(S45) 町田雅人(S59) 恩田正臣苑長(S39)
本村洋文(S51)

馬場での各個乗りのあとは恩田苑長を先頭に、濃い緑に包まれた野外トレッキングで癒され、大自然の恵みを楽しみました。

(3) 2016年全日学「北大馬術部歓迎・激励会」

平成28年の「2016全日学」は、10月28日~11月2日、世田谷のJRA馬事公苑で開かれました。北大からの出場は、「二走障害」に北焔号、「総合馬術」には北創号が出場しました。出場の人馬と競技種目は次の通りでした。

二走障害	羽二生香成(医学1年)	北 焔 号(22歳)
総合馬術	〃	北 創 号(15歳)

東京OB会は、上記の羽二生選手を含め総勢12名の北大チームを迎え、10月29日、天狗馬事公苑店で「2016全日学歓迎・激励会」を開きました。当日の参加者は、札幌からOB近藤喜十郎氏(S42)、川崎洋史氏(H12)など特別参加を含め26名。お名前は次の通りです。(敬称略)

(1) 北大チーム(12名)

高橋春南(農学3年) 本丸尚人(理学3年) 杉田 優(工学3年) 井畔貴之(獣医2年)
上野健太(理学2年) 大木八恵(医学2年) 矢渡 光(経済2年) 菅野隼人(水産1年)
熊倉大騎(水産1年) 須藤美瑛奈(総合理1年) 山川智大(獣医1年) 羽二生香成(医学1年)

(2) 東京OB会(14名)

加藤 元(S31) 樋口正明(S34) 大場善明(S36) 志水一允(S38) 原 重一(S38)
八木澤守正(S42) 近藤喜十郎(S42) 春田恭彦(S44) 本村洋文(S51) 本城敬文(S53)
川崎洋史(H12) 小野元也(H14) 杉山賢治(H14) 宮本 亮(H21)

3. 北大馬術部東京OB会「役員」「幹事」の改選

(1) 北大馬術部東京OB会では、平成13年1月から「会長 樋口正明氏」、「副会長 生田勝一氏」のご指導により活動してきました。ご就任以来16年経過し、「世代交代」のお申し出がありました。就いては、平成29年1月28日(土)開催した北大馬術部東京OB会「平成29年度新年会・総会」で次の通り新役員が選出されました。

会長 大場善明(昭和36年卒)
副会長 春田恭彦(昭和44年卒)

尚、大場善明新会長からこれまで長い間ご尽力いただいた樋口正明前会長と生田勝一前副会長にそれぞれ「名誉会長」と「顧問」へのご就任をお願いしたい旨発言があり全会一致で承認されました。

(2) 合わせて新年度の北大馬術部東京OB会「幹事会」へ次の9名が就任しました。尚、堀内太郎氏には引き続き会計監事を委嘱し、幹事長に本村洋文(S51)が就任しました。

(幹事長)・本村洋文(S51)、
(幹 事)・宮崎 健(S38)・八木澤守正(S41)・名越正泰(S59)・尾崎哲浩(H12)
・杉山賢治(H14)・堀内太郎(H15)・木村滋之(H16)・一色真明(H19)

4. 平成29年度後援会ホームページ

(1) 平成29年度「ID」と「パスワード」

今年度使用の「パスワード」を平成29年1月27日に設定しました。「ID」は従来通りです。
・「パスワード」= lila

(2) ホームページの掲示板でもお知らせしましたが、平成28年6月より「北大馬場の天気」を「ダクタリ ジャパン」様の提供により掲載しております。(気象情報システム(株)の配信)

5. 胡馬北風

「東京OB会 H29新年会」(H29/1/28) ご案内の返信に、OB/OGの皆様から頂いた近況ご報告などを以下にまとめました。(敬称略)

- 岡本 洸 (S31) 毎回欠席で申し訳ありません。年々体力低下で病院回りが忙しいです。又オリンピックが話題ですね。
- 中根豊郎 (S32) 昨年は十分楽しませていただきました。皆様方のご活躍を祈ってやみません。ありがとうございます。
- 生田勝一 (S34) 旧冬12月15日で八十路の大台を超えました。老化が目立ちます。
- 中村美幸 (S34) ご連絡いつもありがとうございます。別の会と重なりました。ご盛会お祈り申し上げます。
- 村山 哲 (S34) 今年の夏から持病の脊柱管狭窄症が再発し、余り調子が良くないため、残念ながら欠席させていただきます。ご盛会を祈念いたします。皆様お元気で良いお年をお迎え下さい。
- 河原紀夫 (S36) 残念ながら体調不良の為、夜の外出をひかえています。皆様によろしく。
- 市川瑞彦 (S38) 本年度の総会には役員改選が諮られると伺っておりますので、日頃の御無沙汰を少しでも埋めるべく参加したいと思います。季節柄、雪害などのため参加不可能になる可能性もありますが、その節は御了承下さい。
- 清水 洋 (S38) いつも有難うございます。年とともに段々と腰の重さが増しつつあります。
- 原 重一 (S38) 今年は8月に草津温泉で市川たちと酒を飲み、9月に札幌でOB諸兄と市川報告会に出席、10月には馬事公苑で大場さんたちと懇談と、久々に北大馬術部が続きました。引き続きよろしく。
- 恩田正臣 (S39) 今年は同期の市川監督が出席されると賀状にありました。楽しみです。
- 高木佑太 (S39) お世話になっております。皆様によろしくお伝え下さい。
- 荒木伸也 (S39) 仕事の為欠席といたします。
- 松尾英彦 (S41) 1/28の出席、楽しみにしております。
- 近藤喜十郎 (S42) 修士論文中間発表が月末にありますので、札幌を離れられません。残念ですが、札幌から市川さんが出席される予定です。
- 武田正宣 (S45) 1/28は用事があるので出席できません。皆様方の健康と活躍を期待致します。
- 梶村哲世 (S47) ご盛会をお祈りいたします。皆様によろしくお伝え下さい。
- 横山豊昭 (S48) 下旬に帰省の予定がありますので失礼します。皆様に宜しくお伝え下さい。
- 江口州志 (S50) 都合により欠席します。皆様によろしくお伝え下さい。
- 森 巖 (S51) 盛会を祈念しております。
- 桑田壮平 (S52) いつもお世話になっています。皆様とお会いできる時を楽しみにしています。
- 大吉淳子 (S52) 先日はお世話になりました。楽しかったです。
- 三好巧悦 (S54) いつもお世話になります。今年度で現役卒業になります。当日、高体連行事のため出席できません。皆様によろしくお伝え下さい。
- 西村 円 (S55) いつもご案内ありがとうございます。盛会をお祈りしています。
- 高橋 均 (S56) ご案内ありがとうございます。
- 増田美希夫 (S58) 引越しました。住所変更をお願いします。現役部員の健闘を祈ります。
(新住所) 〒251-0027 神奈川県藤沢市鶴沼桜が岡3-3-5
- 石井洋行 (S58) いつも欠席で申し訳ありません。皆様によろしくお伝え下さい。
- 根井 智 (H3) 久しぶりに全日選手権を観戦しました。中央の大学に挑んだ後輩をたのもしく思いました。
- 根井礼子 (H4) 来年度の活躍を期待しています。
- 横山 勉 (H4) ご連絡ありがとうございます。年末に家族は春日井から下記住所に引っ越しました。私は現在も長野県塩尻市におり、2月からはベトナムに行く予定です。
(新住所) 〒184-0002 東京都小金井市梶野町3-8-4 コーレト小金井梶野通り1-204
- 堀内太郎 (H15) ご活躍を期待しています。
- 林 宣隆 (H19) 今回は予定がつかず、欠席させていただきます。本年も宜しく願い致します。
- 野村泰子 (H22) 11月に入籍し、現在滋賀で生活しております。しばらく東京OB会の活動からは遠のいてしまうかと思っておりますのでご了承下さい。お手数をお掛けて申し訳ありません。
(旧姓:村木)
- 佐合義弘 (特別) (新住所) 〒520-3025 滋賀県栗東市中沢2-11-13-107
ケアハウスに移住して1年半、馬には週3日を目標に頑張っています。 水戸の隠居
以上

編集後記

今回の部報作成は、合宿等で在の人数が少ない中、残っていた運営で手分けして作業を進め、なんとか発行するまでに至りました。

昨年は、昨シーズンまで、長く北大馬術部を引っ張ってくれた北焔が離厩となり、北日本学生、全日本学生の舞台を経験している馬が北創1頭となってしまいました。ですが、現在の新馬たちの成長は著しく、今シーズンのデビューが期待できそうです。近い将来、全日本学生でいい結果を残すことができるよう、部員一同精進して参りますので、今後とも応援よろしくをお願いいたします。

最後になりますが、お忙しい中時間を割いて原稿を書いてくださった皆様、写真を提供してくださった皆様、ご協力ありがとうございました。

この部活がこれまで通り活動していけるのも、さらに上を目指していけるのも、ひとえに、OBの皆さんの支えがあるからこそであると思っております。改めて感謝の意を表し、編集後記とさせていただきます。今後とも、北大馬術部をあたたく見守っていただければ幸いです。最後までお読みいただきありがとうございました。

羽二生香成

北海道大学馬術部部報 第62号 平成29年12月発行

編集者 北海道大学馬術部部報担当

羽二生 香 成

印刷所 ひまわり印刷株式会社

〒065-0030 札幌市東区北30条東6丁目2-1

発行所 北海道大学馬術部

〒001-0023 札幌市北区北23条西12丁目

TEL・FAX 011-737-1626

銀行口座 北洋銀行 391-1-0443731

表紙元写真撮影者 井 上 京

